

桑折町 生涯学習推進基本計画

～ 第3次～

令和6年度～令和13年度



福島県 桑折町

令和5年12月

(表紙ウラ)

目 次

第1章	計画の策定にあたって	1
1	生涯学習とは	1
2	計画策定の趣旨	2
3	計画の位置づけ	2
4	計画の期間	2
第2章	生涯学習の現状と課題	3
1	生涯学習を取り巻く社会状況	3
2	社会情勢の変化	6
3	桑折町の現状と課題	8
第3章	計画の基本構想	16
1	基本理念	16
2	基本構想	17
3	計画推進の視点	18
4	計画の体系	19
5	基本目標と KPI	20
第4章	基本的な施策の方向	21
	基本構想Ⅰ 学びの環境づくりの推進	
1	生涯学習関連施設の整備・管理運営と効果的な利活用	21
2	誰もが参加しやすい環境づくりの推進	22
3	地域人材の活用に向けた発掘と養成	22
	基本構想Ⅱ 学びの機会の提供と充実	
1	広報・情報発信の充実	24
2	多様な学習機会の提供と充実	25
3	芸術・文化活動の充実	26
4	生涯スポーツ活動の推進	26
5	歴史や文化等、地域資源を生かした学習機会の提供と充実	27
	基本構想Ⅲ 学びを生かしたまちづくりの推進	
1	学習成果の発表と活用の推進	28
2	町民参画によるまちづくりの推進	28
第5章	計画の推進にあたって	29
1	計画の周知	29
2	事業計画の策定	29
3	計画の進行管理	29
4	計画の推進体制	29

資料編	32
1 計画策定の経過	32
2 桑折町生涯学習推進会議設置要綱	33
3 桑折町生涯学習推進本部設置要綱	34
4 桑折町生涯学習推進会議委員名簿	36
5 生涯学習関連施設一覧	38
6 生涯学習に関する町民アンケート調査結果概要	39

第1章 計画の策定にあたって

1 生涯学習とは

(1) 生涯学習の定義と理念

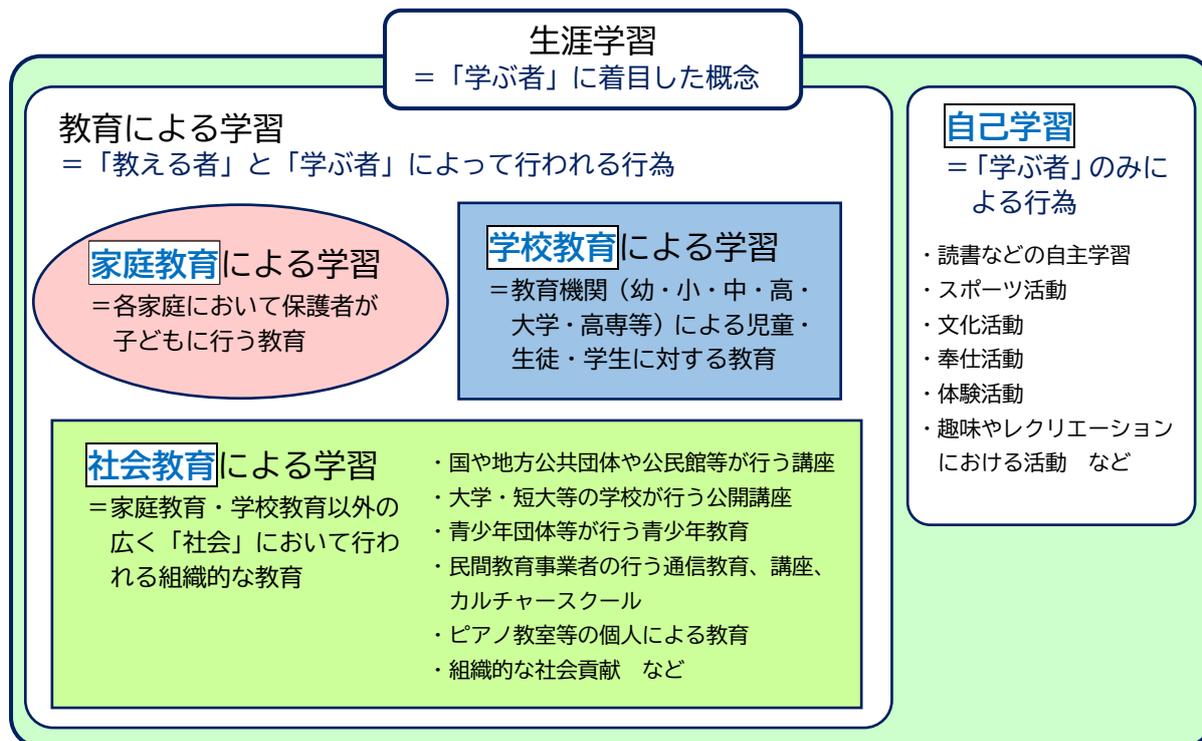
生涯学習の考え方は、昭和56年の中央教育審議会の答申「生涯学習について」において、初めて本格的に取り上げられました。その中で、生涯学習は「人々が自己の充実・啓発や生活の向上のために、自発的意思に基づいて行うことを基本とし、必要に応じて自己に適した手段・方法を自ら選んで、生涯を通じて行う学習」とされています。

また、生涯学習の理念については、教育基本法第3条において、「国民一人一人が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と規定されています。

(2) 生涯学習の概念

生涯学習は、家庭教育、学校教育、社会教育はもとより、歴史や文化、スポーツ活動、ボランティア、企業内教育、趣味に至るまで、様々な機会に行う学習の意味で用いられ、人が生涯にわたって自主的・自発的に行うあらゆる学習活動を包含しています。

【生涯学習の概念図】



2 計画策定の趣旨

桑折町では、町民一人ひとりが自らの生きがいを求め、その自己実現を図りながら共生社会の一員として充実した日々を過ごせるよう、平成17年に「桑折町生涯学習推進基本計画（第1次）」を、平成27年に令和6年度までの10年間の期間とする「桑折町生涯学習推進基本計画（第2次）」を策定し、生涯学習における各種施策の展開を図ってきました。

この間、人口減少の進展や地域コミュニティの希薄化、価値観・ライフスタイルの多様化、ICT技術の急速な進化に加え、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う生活様式の変化など、生涯学習施策を取り巻く環境は大きく変化しました。

桑折町では、こうした情勢の変化や新たな課題に着実に対応するため、町の最上位計画として令和4年度から令和13年度までの10年間の期間とする新しい町総合計画「献上桃の郷こおり未来躍動プラン」を令和3年に策定しました。そうした中、生涯学習分野の個別計画である「桑折町生涯学習推進基本計画」についても、町総合計画に沿って見直しが必要となりました。

そのため、第2次計画の最終年度を待たず1年前倒して、社会情勢や町民ニーズの変化にも対応し、新時代における生涯学習の方向性を示す計画として、また、「人づくり」を担う重要な分野の指針として、新たに「桑折町生涯学習推進基本計画（第3次）」を策定するものです。

3 計画の位置づけ

本計画は、桑折町総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」（令和4（2022）年度～令和13（2031）年度）の分野別計画として、本町の生涯学習を推進するための施策等について定めるものです。総合計画との整合性を図り、生涯学習の推進を図ります。

4 計画の期間

本計画の期間は、令和6（2024）年度から令和13（2031）年度までの8年間とします。

なお、計画期間中、計画の進捗状況や本町を取り巻く社会情勢の変化、新たな環境課題等によって見直しの必要性が生じた場合には、適宜計画の見直しを行うこととします。

	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)	R 13 (2031)
桑折町総合計画 「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」	前期基本計画			中期基本計画				後期基本計画		
桑折町生涯学習推進 計画	第2次計画		第3次計画（本計画）							

第2章 生涯学習の現状と課題

1 生涯学習を取り巻く社会状況

(1) 国の動向

○教育基本法の改正

国では文部科学省を中心に、生涯学習の基盤整備が行われています。

平成18年に60年ぶりに教育基本法が改正され、同法第3条において「生涯学習の理念」が新たに明記されました。加えて、学校、家庭及び地域住民等の連携協力など、生涯学習や社会教育関係の規定の充実が図られました。

○「教育振興基本計画」の策定

教育基本法第17条第1項において、教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、国は基本的な計画（教育振興基本計画）を定めることが規定されたことから、平成20年7月に「教育振興基本計画」が閣議決定されています。平成25年6月には「第2期教育振興基本計画」が閣議決定されました。その後、平成30年6月に「第3期教育振興基本計画」が策定され、「2030年以降」の社会を見据えた教育施策のあり方が示されました。

令和5年6月16日、「次期教育振興基本計画」が閣議決定されました。次期（第4期）計画のコンセプトとして、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイング[※]の向上」が掲げられるとともに、今後の教育政策に関する5つの基本方針が示されています。

(2) 県の動向

○「県民カレッジ」スタート

福島県では、平成16年に「県民カレッジ」として、県内にある様々な機関と連携し、それぞれが実施する講座等を体系化して提供するとともに、学習成果を生かした社会参加活動を支援するなど、県全域を対象とした総合的な学習提供システムをスタートさせました。以来この県民カレッジを一つの核としながら県民の生涯学習の推進に努めています。

○「まなビジョンふくしま2020」の策定

平成17年には、「すべての県民が生涯を通じて自ら学び、考え、行動し、他の全ての主体とともに県全体として一つにつながり合う」という理念の下、県民の生涯を通じた学びの将来方向を描く、福島県生涯学習基本構想「まなビジョンふくしま2020」が策定されました。

※ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

○「夢まなびと創造プラン」の策定

平成22年には、平成17年に策定した基本構想の理念を継承しつつ、時代の変化に対応し、多様な学習要求に応える生涯学習の機会の充実、その成果を発表できる場や機会の設定、地域づくりにつながる生涯学習の推進に向けて、令和2年度までを計画期間とした福島県生涯学習基本計画「夢まなびと創造プラン」が策定されました。

○「夢まなびと創造プラン」の見直し

その後、平成25年3月に、福島県生涯学習基本計画「夢まなびと創造プラン」の見直しがなされました。これは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う原子力発電所の事故により県民の生活が極めて深刻な影響を受け、社会経済情勢も計画当初の想定から大きく変わったことから、福島県総合計画の見直しに合わせて行われたものです。

○新たな「生涯学習基本計画」の策定

令和3年10月に新たな「福島県総合計画（計画期間：令和4年度～12年度）」が策定されたことから、これまでの経過や社会情勢の様々な変化も踏まえ、県における今後の生涯学習推進施策の方向等を示すことを目的として、令和4年3月に新たな生涯学習基本計画が策定されました。さらに、令和5年3月に一部改定がなされています。

(3) 桑折町の動向

○「桑折町生涯学習推進基本計画」策定と推進

桑折町では平成17年に「桑折町生涯学習推進基本計画」を策定しました。「町民一人ひとりが生きがい・自己実現を求め、いつでも・どこでも・だれでもが主体的に学び続け、その学習成果を生かした社会参加による地域づくり・まちづくり」を基本理念とし、「総合行政としての生涯学習推進のための体制の整備」、「生涯学習のための環境づくり」、「多様な学習機会の提供と内容の充実」、「町民参画によるまちづくりのための生涯学習の充実」、「学習成果の活用と指導者の育成・活用」、「学習情報の収集・提供と生涯学習の啓発・奨励」の6つの基本構想に基づく各施策を展開しました。

○「桑折町生涯学習推進基本計画（第2次）」策定と推進

平成27年に第2期目の計画となる「桑折町生涯学習推進計画（第2次）」を策定しました。第1次計画の基本理念を踏襲し、平成27年度から平成36（令和6）年度までの10年間を期間として各種施策を展開しました。

しかし、人口減少社会の進展や新型コロナウイルス感染症のまん延など、急激な情勢変化と課題に対応するため、令和3年9月に本計画の上位計画である町総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」が策定となり、その整合性を図るため、令和4年度に一部見直しを行うとともに、第2次計画の期間満了を待たず、1年前倒しで第3次計画（令和6年度～令和13年度までの8年間を期間）を令和5年中に策定するため、令和5年2月に町民アンケート調査を行いました。

【生涯学習をめぐる近年の主な動き】

年	国	福島県	桑折町
平成16年		・「県民カレッジ」開始	
平成17年		・福島県生涯学習基本計画「まなビジョンふくしま2020」策定	・「桑折町生涯学習推進基本計画」策定
平成18年	・「教育基本法」改正		
平成20年	・「教育振興基本計画」閣議決定（7月）		
平成22年		・福島県生涯学習基本計画「夢まなびと創造プラン」策定	
平成25年	・「第2期教育振興基本計画」閣議決定（6月）	・福島県生涯学習基本計画「夢まなびと創造プラン」見直し	
平成27年			・「桑折町生涯学習推進基本計画（第2次）」策定
平成30年	・「第3期教育振興基本計画」閣議決定（6月）		
令和3年		・「福島県総合計画（最上位計画）」の策定	・「桑折町総合計画（最上位計画）」の策定
令和4年		・「福島県生涯学習基本計画」策定	・「桑折町生涯学習推進基本計画（第2次）」見直し
令和5年	・「第4期教育振興基本計画」閣議決定（6月）	・「福島県生涯学習基本計画」一部改定	・町民アンケート調査の実施 ・「桑折町生涯学習推進基本計画（第3次）」策定（予定）

【町民アンケート調査の概要】

調査目的	桑折町の生涯学習について、町民ニーズや課題等を整理し、桑折町生涯学習推進基本計画（第3次）の策定に向けた基礎資料とするため。
調査期間	令和5年2月22日（水）～令和5年3月10日（金） ※集計は令和5年3月15日（水）回収分までを含む
調査方法	無記名のアンケート調査 （郵送配布・郵送回収。 調査票に記載のURLや二次元コードからのWEB回答併用）
調査対象	町内に住民登録をしている15歳以上の町民のうち、無作為に抽出された1,000人
回収状況	・回収数 647（郵送 554、WEB 93） ・無効 2 ・有効回収数 645 ・有効回収率 64.5%

2 社会情勢の変化

(1) 人生 100 年時代

我が国は世界一の長寿国であり、近年は「人生 100 年時代^{※1}」と言われています。「人生 100 年時代」には、すべての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会の形成が重要です。長い人生をより豊かに充実したものにするため、生涯にわたる多様な学習機会や優れた文化芸術に親しむ機会、健康づくりも重要になってきます。

本町においても、町民の生活様式や価値観は多様化してきており、個々人のニーズや多様化する生き方、ライフステージに応じた学習機会や学習情報の提供が求められています。

(2) 少子高齢化及び人口減少

少子高齢化・人口減少は全国的な課題であり、本町においても人口減少が続いています。

地域の活力低下が懸念される中、人々が安心して心豊かに生活することができる地域づくりが大きな課題となっており、地域で活躍するリーダーを育成する「人づくり」や、住民の地域活動・学習活動への参加を促進していくことが必要です。人口減少社会を前提としながらも、地域内の人材を発掘し、活躍の場を提供することにより、地域全体の学習活動を活性化し、好循環を生み出すことが重要です。

(3) 新型コロナウイルス感染症の拡大

令和 2 年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、全世界で猛威を振るい、人々の生活に大きな影響をもたらしました。

感染対策を意識した「新しい生活様式」が求められる中、企業等ではテレワークやワーケーションなどが急激に浸透したほか、学校等におけるリモート授業やオンラインによるコミュニケーションが日常化し、ICT^{※2}等を活用した新たな学びの可能性が顕在化しています。

コロナ禍を教訓とした感染症対策の強化や「新しい生活様式」を踏まえ、今後、アフターコロナにおける生涯学習活動をどのように推進していくのかが重要な視点となっています。

※1 人生 100 年時代：ロンドン・ビジネス・スクール教授のリンダ・グラットンとアンドリュー・スコットが『LIFE SHIFT 100 年時代の人生戦略』（東洋経済新報社 2016 年）で提唱した言葉。世界で長寿化が急速に進み、先進国では 2007 年生まれの 2 人に 1 人が 100 歳を超えて生きる「人生 100 年時代」が到来すると予測し、新しい人生設計の必要性を説いています。日本政府では、超長寿社会において、人々がどのように活力を持って時代を生き抜いていくか、そのための経済・社会システムはどうあるべきなのかが、「人づくり革命」の根底にある大きなテーマであるとし、こうした社会システムを実現するための政策のグランドデザインを検討する構想会議として、安倍首相（当時）を議長とする「人生 100 年時代構想会議」が平成 27 年（2017 年）に発足し、翌平成 28 年（2018 年）6 月には「人づくり革命基本構想」が発表されました。

※2 ICT：Information and Communication Technology の略で、通信技術を活用したコミュニケーションのこと。

(4) デジタル化の進展

現在は、IoT、AI、ビッグデータをはじめとしたデジタル技術が進展し、様々な分野でデジタルトランスフォーメーション（DX）が進んでいます。社会のデジタル化が進展することで、これまでの地理的制約や時間的制約が少なくなり、人とのつながりが広がることや、多様な学びのニーズに対応する環境構築が期待されます。

一方で、身近にインターネットの環境がない方や、通信機器等の操作方法がわからない方も多く、誰もが新しい技術のメリットを享受できるよう、そのための環境整備や技術的支援が必要となっています。

(5) 持続可能な開発目標（SDGs）への対応

持続可能な開発目標（SDGs）とは、「Sustainable Development Goals」の略であり、平成27年9月の国連サミットにおいて採択された、持続可能な世界を実現するための国際社会全体の普遍的な目標です。17のゴール（目標）と169のターゲットから構成されています。

SDGsの推進にあたっては、誰一人取り残さない世の中の実現や、経済・社会・環境の統合が実現された未来を目指すことが重要であるとされ、国においても、その達成に向けた取組みが進められています。

本町においても、令和3年5月にSDGsの推進に取り組む金融機関や民間事業所と包括連携協定を締結するとともに、6月には「地方創生SDGs推進の町」を宣言し、町、町内事業者、町民が一丸となったSDGsの理念に基づいた取組みを推進しています。また、町総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」の各施策分野に17のゴールを関連づけ、全庁的なSDGsの推進を図っています。



「初めてのタブレット講座」でアシスタントのサポートを受け操作する参加者

3 桑折町の現状と課題

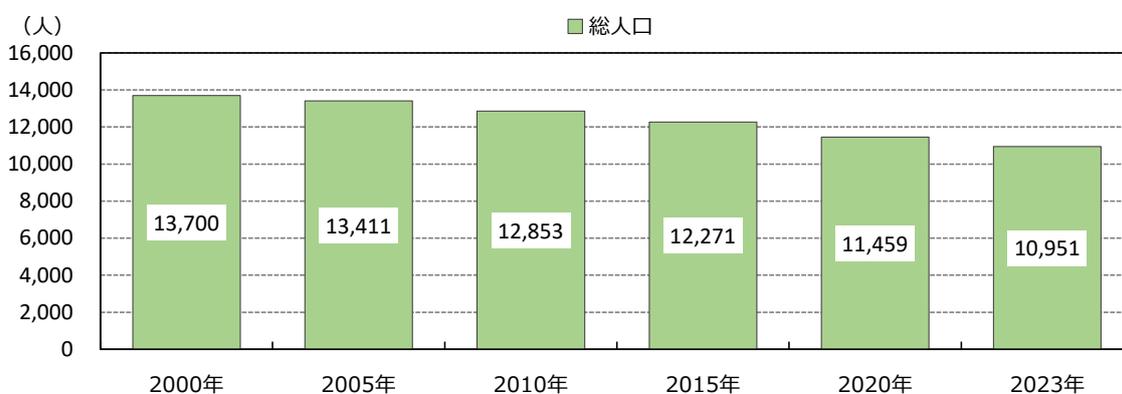
(1) 人口動態

本町の人口動態は、以下の通りです。

① 総人口

本町の総人口は一貫して減少傾向にあります。令和5（2023）年の総人口は10,951人と、約20年前の平成12（2000）年と比較すると、2,749人の減となっています。

【総人口の推移】



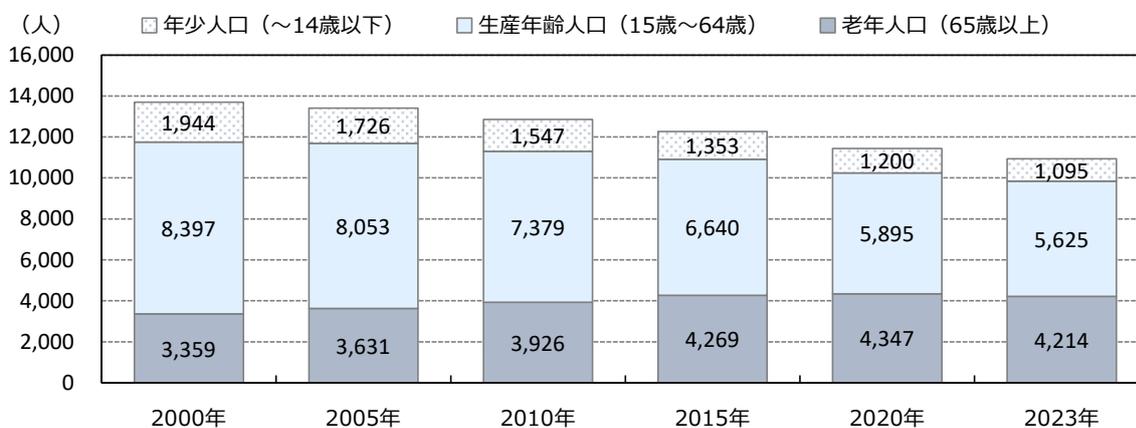
資料：国勢調査、（2023年のみ）福島県現住人口調査月報（各年10月1日）

② 年齢3区分別人口と割合

年齢3区分別人口の推移を見ると、年少人口と生産年齢人口はともに減少しています。

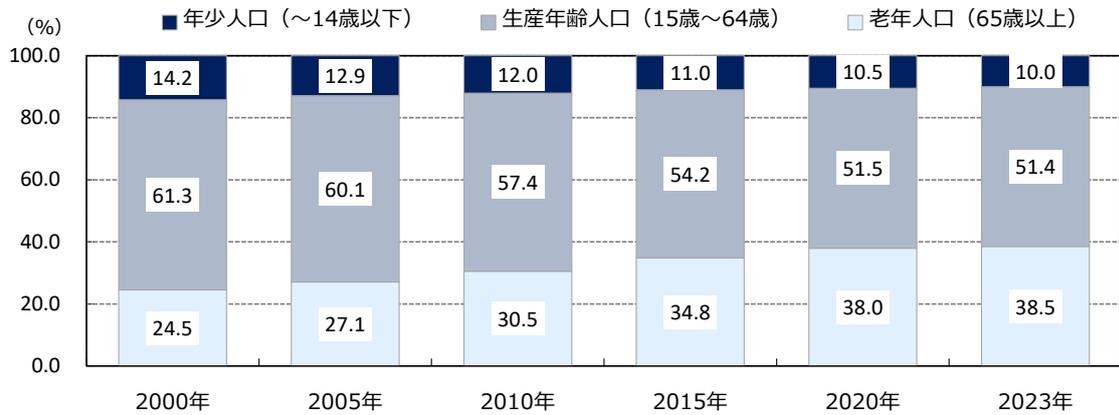
また、65歳以上の老年人口は、令和5（2023）年で4,214人となり、これまでの増加傾向から初めて減少に転じました。ただし、高齢化率は38.5%と上昇傾向が続いています。

【年齢3区分別人口の推移】



資料：国勢調査、（2023年のみ）福島県現住人口調査月報（各年10月1日）

【年齢3区分別人口割合の推移】

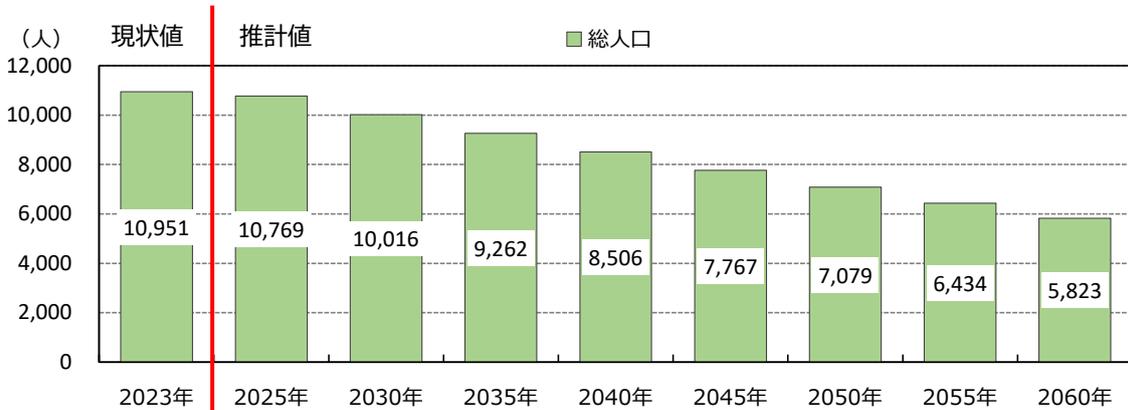


資料：国勢調査、(2023年のみ) 福島県現住人口調査月報 (各年10月1日)

③ 将来推計人口

「桑折町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」《令和3年版》における将来推計人口では、令和12(2030)年までは1万人台で推移するものの、対策を講じなければ、それ以降1万人を下回り、人口減少が続いていくと予想されます。

【将来人口の推計 (基準推計 2020)】



資料：「桑折町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」《令和3年版》

(2) 生涯学習関連施設等の利用状況

桑折町における主な生涯学習関連施設の利用状況は、以下の通りです。

① 社会教育施設

公民館をはじめとした社会教育施設の利用者数は各年度6万人前後で推移していましたが、令和元年末から世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年度の利用者数は24,058人となり、これまでの半数以下にまで落ち込みました。その後、徐々に利用者数は戻り始め、令和4年度は36,987人となっているものの、各団体利用において対面での会合を見送るなど、全体的に利用者数の戻りは鈍くなっています。

(単位：人)

施設名	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
桑折町公民館	16,298	14,152	12,645	12,681	5,343	7,034	9,103
睦合公民館	5,523	3,558	3,051	3,019	1,041	1,478	1,889
伊達崎公民館	4,901	4,497	3,822	2,770	1,265	1,390	1,538
半田公民館	6,220	5,719	5,380	4,906	2,703	2,299	2,308
遊学館よも～よ	8,360	9,097	9,512	8,896	5,989	7,345	6,873
イコーゼ! (プールを除く)	21,533	21,962	23,931	23,702	7,717	11,536	15,276
合計	62,835	58,985	58,341	55,974	24,058	31,082	36,987

資料：教育文化課作成資料

② 図書貸出冊数

遊学館よも～よの図書貸出冊数は、各年度14,000～19,000冊前後で推移しています。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け休館期間があったものの、令和4年度の貸出冊数は16,653冊と、利用者数の減少と比較すると、それほど落ち込みは見られませんでした。

なお、令和3年からインターネットによる蔵書検索や、図書システムによる予約貸出をスタートしています。

(単位：冊)

施設名	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
遊学館よも～よ	14,895	17,948	18,965	18,027	14,246	18,040	16,653

※コロナ禍により休館あり

資料：教育文化課作成資料

③ 体育施設

町民運動場をはじめとした体育施設の利用者数は減少傾向で推移していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、令和2年度の利用者数は34,135人と大きく落ち込みました。その後は回復傾向にあり、令和4年度の利用者数は44,204人となっています。

(単位：人)

施設名	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
桑折町民運動場	5,731	6,093	5,559	5,808	4,726	5,756	5,413
桑折町民体育館	17,647	16,281	17,212	15,200	9,640	9,430	10,324
桑折テニスコート	10,458	6,574	8,828	8,635	3,877	5,960	4,608
屋内温水プール	37,336	33,604	33,098	28,334	15,892	20,439	23,859
合計	71,172	62,552	64,697	57,977	34,135	41,585	44,204

資料：教育文化課作成資料

④ 水泳教室・運動教室等

水泳教室・運動教室等の参加者数は、コロナ禍においても400人前後で推移しています。

(単位：人)

施設名	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
水泳教室・運動教室等の参加者数	378	375	438	534	389	415	409

資料：教育文化課作成資料

⑤ 桑折町文化記念館 ※令和5年9月に種徳美術館を用途廃止し、旧伊達郡役所として管理

文化記念館（旧伊達郡役所と種徳美術館）は、多い時で約13,000人の入場者数がありましたが、令和に入ってから入場者数が減少しています。令和3年1月は新型コロナウイルス感染拡大の影響により休館し、同年2月には福島県沖地震で被災したため休館となりました。令和4年3月の福島県沖地震で再び被災し、旧伊達郡役所においては、災害復旧と保存修理工事を行い、同年12月に再オープンイベントを実施しました。

なお、被災した種徳美術館の解体に向けて、令和5年9月で施設管理条例を廃止し、旧伊達郡役所について、独立した新たな条例を制定しました。

(単位：人)

施設名	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
旧伊達郡役所	10,256	5,594	10,397	3,906	3,023	149	1,649
種徳美術館	2,679	1,606	1,899	1,822	1,508	0	0
桑折町文化記念館	12,935	7,200	12,296	5,728	4,531	149	1,649

資料：教育文化課作成資料

⑥ 桑折西山城跡等

桑折町の歴史的遺産を案内する「町歴史案内人」は平成 30 年5月よりスタートしました。令和4年度は、10月に開催したイベントで案内人を活用したことから、利用者数が飛躍的に伸びて2,543人となりました。

桑折西山城跡の来場者数は、令和3年10月に「第28回全国山城サミット桑折大会」の開催を受けて大きく増加しました。令和4年度の来場者数は7,615人となっています。

令和4年5月には、戦国大名伊達氏の居城「史跡桑折西山城跡」の保存と活用を行い、次世代に継承していくことを目的に、「桑折西山城跡を守る会」を発足しました。同会は、「全国山城サミット桑折大会」の実行委員会を母体として、町民が主体となって活動しています。

(単位：人)

施設名	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
町歴史案内人の利用者数	—	—	295	667	280	66	2,543
「史跡桑折西山城跡を守る会」会員数	—	—	—	—	—	—	97
桑折西山城跡の来場者数	370	486	804	1,939	700	2,781	7,615

資料：教育文化課作成資料



晴天の下、史跡桑折西山城跡に登城したツアー参加者と伊達武将隊

(3) 第2次計画期間における現状と課題

生涯学習の推進にあたっては、多様化するニーズや社会・経済環境の変化に対応し、進捗状況を把握する必要があるため、第2次計画基本構想の体系毎に現状と課題を以下にまとめました。

★：町民アンケート調査結果より

項目	現状	課題
<p>I 町民一人ひとりの生涯に通じる多様な学習機会の提供と充実</p>	<p>(1)知識・技術の習得の必要性の高まり、町民学習ニーズの多様化</p> <p>★町民学習ニーズは、健康づくり・運動、趣味・芸術、情報社会で必要な知識技能に関することが上位</p> <p>(2)家庭環境の変化による不安や悩みを抱える親の増加</p> <p>(3)「歴史と文化のまち」として文化活動団体を中心に自主活動やイベントを開催していたが、コロナ禍により活動を制約</p> <p>★芸術・文化鑑賞の機会がない方が半数近い。機会がある場合は町外が多い</p> <p>(4)体育施設は一体的に整備されており、健康増進や生きがいづくりのためのスポーツ活動の拠点として活用</p> <p>(5)コロナ禍によるスポーツ団体の活動制限やスポーツを個人で楽しむ人の増加により会員や団体数が減少</p> <p>★年代が下がるにつれ、生涯スポーツは重要であると回答</p> <p>(6)科学技術の高度化やデジタル化の急速な進展</p> <p>(7)コロナ禍による多文化交流の減</p> <p>(8)食の安全、高齢者対象の詐欺等、消費者をめぐるトラブルの複雑・高度化</p> <p>(9)「地方創生 SDGs 推進の町」を宣言（令和3年6月）</p>	<p>(1)ライフステージに応じたスキルアップや、現代的諸課題に関する学習機会と支援体制の充実</p> <p>★学習活動の継続やさらなる向上に向けた支援</p> <p>(2)子育てについて学び・相談できる家庭教育の充実</p> <p>(3)町民が身近に触れる機会の創出や文化団体の自主活動成果を披露する場の提供</p> <p>★町内外で身近に芸術・文化鑑賞ができる機会の創出</p> <p>(4)イベント等の開催、施設の計画的修繕と有効活用を図り、健康志向の高まりに対応した生涯スポーツを推進</p> <p>(5)各種スポーツ団体等の自主活動を支援</p> <p>★年代、興味関心、体力に合わせた生涯スポーツを推進</p> <p>(6)情報通信技術（ICT）の活用による多様な学習情報の収集・提供システムの構築</p> <p>(7)ICTの活用等、新たな国際交流の検討</p> <p>(8)多様な主体連携による学校・家庭・地域・職場等における消費者教育の推進</p> <p>(9)町民一人ひとりが理念を意識し、それぞれの意思に基づいた学習活動を行えるよう支援</p>

項目	現状	課題
<p>Ⅱ 誰もが参加しやすい生涯学習の環境づくり</p>	<p>(1)講座等の内容の偏りと利用者層の固定化</p> <p>★生涯学習を行っていない理由は、きっかけがない、仕事が忙しい、魅力を感じない</p> <p>★「生涯学習の場所や形態にはこだわらない」が2割以上</p> <p>★生涯学習・スポーツの推進のため町が力を入れるべきことは、わかりやすい情報提供、講座やイベントメニューの増加、施設の利便性向上を望む声あり</p> <p>(2)若年層や現役世代の利用状況の低迷</p> <p>★年代が下がるにつれて、オンライン学習をしたい割合が多い</p> <p>(3)公民館や遊学館「よも～よ」等、関連施設・設備の老朽化</p> <p>★遊学館よも～よを「利用していない」は8割</p> <p>(4)「イコーゼ！」は生涯学習活動の拠点として機能発揮</p> <p>(5)福島県沖地震の影響により、歴史や文化財等を学べる施設が休館</p> <p>(6)「こおり地域クラブ」活動の開催等、多世代交流機会を設定</p>	<p>(1)誰もが活動に参加しやすく、学び続け、成果を生かせる環境づくり</p> <p>★生涯学習の魅力発信、きっかけづくり、時間・場所の制約を軽減した参加しやすい学習機会の創出</p> <p>★個人の学習希望状況に合わせた生涯学習の支援</p> <p>★ソフト面、ハード面、双方からの学習環境整備の推進</p> <p>(2)若年層や現役世代が参加しやすい条件等の工夫と事業展開</p> <p>★Wi-Fi等のインターネット環境の整備、パソコンやスマートフォンの使い方を学ぶ機会の創出</p> <p>(3)計画的な施設の維持管理・修繕</p> <p>★遊学館よも～よの利用促進、読書人口の増進</p> <p>(4)安定的な学習の場の提供、公民館機能の充実や公共施設等の利活用</p> <p>(5)歴史遺産ガイドンスや観光案内機能の充実等、新たな利活用の検討</p> <p>(6)地域・学校・家庭のさらなる協働</p>

項目	現状	課題
Ⅲ 町民参加によるまちづくりのための生涯学習の推進	<p>(1)頻発化・激甚化する災害により地域コミュニティや絆の大切さを改めて認識</p> <p>(2)高齢化や人口減少等による地域社会の弱体化、地域活動や催事の継承が難しい状況</p> <p>(3)高齢化による保存団体の解散など、後世への伝承に懸念</p> <p>★旧伊達郡役所、桑折西山城跡の活用は、イベント、歴史資料等の展示、歴史散歩、コンサート等を望む声あり</p>	<p>(1)東日本大震災・原発事故の教訓を次世代へ継承し、災害に強い防災まちづくりを推進</p> <p>(2)地域課題を学ぶ機会やボランティア活動の充実、町民・産業界・行政協働によるまちづくり推進</p> <p>(3)町民・団体との協働による歴史的遺産継承のための組織づくりと、団体の支援及び発表機会の提供</p> <p>★歴史文化財を保存・継承していくとともに、価値や魅力を伝える取組み、利活用を推進</p>
Ⅳ 生きがい・やりがいにつながる学習成果の活用と指導者の養成	<p>(1)各種イベント開催に合わせた成果発表の実施</p> <p>(2)優れた知識・技能を持ち、学習活動に協力してくれる人材登録制度等を整備</p> <p>(3)生涯学習指導者・ボランティア等の人材不足</p> <p>★学習成果を「機会があれば生かしたい」が約3割</p>	<p>(1)活躍の場創出による学習意欲の向上と仲間づくりを通じた地域社会の活性化</p> <p>(2)学習活動の指導者やリーダー、学習ボランティアの発掘と活用</p> <p>(3)指導者・学習ボランティア等の人材養成、学習者の中から新たな発掘につながる「学びの循環」の構築</p> <p>★会得した知識や経験を地域活性化やまちづくりに生かすことができる機会の創出</p>
Ⅴ 生涯学習の啓発・奨励と推進体制の整備	<p>(1)自己啓発に加え、社会的要請が強い課題に対し学習機会の重要性が高まっている</p> <p>(2)コロナ禍による各種まちづくり講演会等開催の減少</p> <p>(3)「生涯学習推進会議（町民や団体・学識者等）」、「生涯学習推進本部（役場全庁）」の設置、中央公民館館長、運営推進員等の専任配置</p>	<p>(1)町民ニーズの的確な把握と全国的な動向や先進的な取組み等に関する調査・研究の推進</p> <p>(2)講演会等の開催を通じた啓発・奨励を推進</p> <p>(3)推進組織、職員体制の充実による総合的・効率的な生涯学習の推進</p>

第3章 計画の基本構想

1 基本理念

桑折町の生涯学習推進のための基本理念は、桑折町総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」(令和3年9月策定)に掲げる「町の将来像」、「基本方針」、生涯学習分野の関連施策で掲げる「町が目指す姿」を踏まえ、第2次計画に引き続き「町民一人ひとりが生きがい・自己実現を求め、いつでも・どこでも・だれでもが主体的に学び続け、その学習効果を生かした社会参加による地域づくり・まちづくり」とします。

最上位計画の総合計画の実現に向け、デジタル技術の進展等の社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、分野別の個別計画である本計画によって生涯学習のさらなる推進を図っていきます。

総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」

◇町の将来像

「みんなが幸せを実感できる 元気なまち こおり」

◇基本方針

- ①活力と賑わいに満ちたまちづくり
- ②危機管理に備えた安全・安心のまちづくり
- ③暮らしと自然が調和した豊かさを実感できるまちづくり
- ④健康長寿で元気なまちづくり
- ⑤子どもを大切にすまちづくり
- ⑥交流で絆を育むまちづくり

生涯学習分野の関連施策に掲げる「町が目指す姿」

<施策 4-4：生涯学習の推進>

いつでもどこでも誰でもが、
自分の人生を豊かにするために学習できるまち

<施策 4-5：生涯スポーツの推進>

誰もが健康で活発にスポーツを楽しみ、
豊かな心と笑顔であふれるまち

<施策 3-1：都市緑化・景観づくりの推進>

旧伊達郡役所周辺の歴史的景観が保存・修景され、
魅力ある街並みが形成されたまち

<施策 6-2：歴史まちづくりの推進>

歴史的遺産の保存と活用、次世代への継承が図られ、
郷土愛にあふれた歴史と文化のまち

本計画（第3次）の基本理念 ※前計画から継承

「町民一人ひとりが生きがい・自己実現を求め、いつでも・どこでも・だれでもが主体的に学び続け、その学習効果を生かした社会参加による地域づくり・まちづくり」

2 基本構想

(1) 学びの環境づくりの推進

生涯学習を充実した魅力あるものにしていくためには、学習者を取り巻く学習環境の整備と生涯学習を支える人材が必要です。

町民アンケートによると、生涯学習関連施設の利用に関する意見も多く寄せられ、学習環境の重要性を再認識する結果となりました。

第3次計画では、第2次計画での取り組みを発展させ、学習支援体制の整備、安定的な学びの場の提供を図ることで、誰もが学びやすい学習環境づくりを推進します。また、生涯学習を推進していくためには、アドバイザーやリーダーの存在、講師役、コーディネーター、サポーターがチームとして取り組む仕組が欠かせないことから、学習ボランティアも含めた人材の発掘と養成を図り、その活躍による「学びの循環」の形成を進めます。

(2) 学びの機会の提供と充実

「人生100年時代」が謳われる現在、長い人生を豊かに健康に過ごしていくためには、生涯を通じた学びによる自己研鑽、レベルアップがますます重要となっています。

町民アンケートによると、生涯学習が重要であると回答している人は8割を超えています。また、今後希望する生涯学習を行う場所や形態については、これまでの公民館講座や教室で学ぶ形に次いで、インターネット等を利用した自宅学習など、場所・形態にはこだわらない人が多くなっており、各自のライフスタイルやより時代に即した学習が求められていることがうかがえます。一方で、生涯学習をしていない理由で最も多かったのは、「きっかけがない」でした。

第3次計画ではこうしたニーズを踏まえ、効果的な情報発信によるきっかけづくりから始まり、誰もが時間や場所にとらわれず、自らが取り組みたい学習に主体的に取り組み、学びを継続していけるよう、各年代のライフステージ（生涯各期）で求められる多様なニーズに対応した学習機会の提供と、内容の充実を図ります。

(3) 学びを生かしたまちづくりの推進

まちづくりは人づくりから始まると言われ、活力あるまちづくりには、一人ひとりが地域に関わり、自らが学び得た学習の成果を広く地域に還元していくことが重要です。

町民アンケートによると、地域の活性化やまちづくりのために自分の経験や知識を生かしたいと思う人は3割となっており、今後の活躍が強く期待されます。

第3次計画では、一人ひとりの学習成果がまちづくりの担い手として生かされることで、地域課題の解決や地域の活性化が図られるよう、学びを生かしたまちづくりを推進します。また、成果発表の場や活躍できる機会の創出を図っていくとともに、まちづくりに関わる学習や地域づくり活動の支援などに取り組み、地域住民が一体となった豊かなまちづくりへとつなげます。

3 計画推進の視点

本計画は、町民一人ひとりが生涯にわたって生きがいを持ち、心豊かな生活を送るとともに、地域全体の成長、活性化を目標とします。

施策事業の実施にあたっては、以下の視点を横断的・包括的に意識しながら、効果的な生涯学習の推進に取り組んでいきます。

視点①:デジタル活用



学習環境の向上

デジタル社会の進展に合わせ、デジタルデバイド※に配慮しつつ、オンラインやデジタル機器を積極的に活用していきます。

時間的・地理的な制約が少ないデジタルの利点を生かし、仕事や子育て等で学習の時間が取れない方、障がい者、高齢者など、誰もが学びを身近に行える多様な学習機会や交流機会の提供を図ります。

視点②:人材育成と活用



地域の活性化

生涯学習の推進のためには、学習活動を支えるコーディネーター、講師、ボランティアなどの様々な人材が必要です。生涯学習のさらなる振興を図るため、人材育成を推進します。

地域内で多種多様な知識、技能等を持つ方々に活躍していただくことで、町全体を元気にし、地域の活性化につなげます。

視点③:SDGs 対応



豊かな人生を送る

本計画ではSDGsの17のゴールのうち関連の深いゴール（町総合計画に掲載している3、4、5、10、11）について、その達成に向けた取組みを推進します。

生涯学習の推進を通じて、誰一人として取り残さない、持続可能な多様性と包括性のある社会の実現を目指し、一人ひとりが充実した豊かな人生を送れるよう後押しします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



※デジタルデバイド：各種通信技術を利用したり使いこなしたりできる人とそうでない人との間に生じる貧富や機会、社会的地位などの格差のこと。

4 計画の体系

基本理念

町民一人ひとりが生きがい・自己実現を求め、
いつでも・どこでも・だれでもが主体的に学び続け、
その学習成果を生かした社会参加による地域づくり・まちづくり

<基本構想>

<基本的な施策の方向>

つどう

I 学びの環境づくり の推進

- 1) 生涯学習関連施設の整備・管理運営と効果的な利活用
- 2) 誰もが参加しやすい環境づくりの推進
- 3) 地域人材の活用に向けた発掘と養成

まなぶ

II 学びの機会の 提供と充実

- 1) 広報・情報発信の充実
- 2) 多様な学習機会の提供と充実
- 3) 芸術・文化活動の充実
- 4) 生涯スポーツ活動の推進
- 5) 歴史や文化等、地域資源を生かした学習機会の提供と充実

むすぶ

III 学びを生かした まちづくりの推進

- 1) 学習成果の発表と活用の推進
- 2) 町民参画によるまちづくりの推進

視点①: デジタルの活用

視点②: 人材育成と活用

視点③: SDGsへの対応

5 基本目標と KPI

計画全般にわたる基本目標及び KPI（重要業績評価指標）は、桑折町総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」で掲げている目標値と一体的に捉えて、次回実施の生涯学習に関するアンケート調査等で確認します。

【基本目標】

総合計画における施策	項目	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和13年度)
施策 4-4:生涯学習の推進	町民の学習機会やスポーツ活動の活発さについての満足度	25.1%	40.0%以上
施策 4-5:生涯スポーツの推進	健康維持増進のための運動を「している」と回答した人の割合	46.1%	80.0%
施策 6-2:歴史まちづくりの推進	歴史や文化を学ぶ機会の満足度	25.1%	40.0%

【KPI（重要業績評価指標）】

総合計画における施策	項目	基準値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)
施策 4-4:生涯学習の推進	図書室蔵書の貸出冊数	16,292 冊	20,000 冊
	社会教育施設の利用者数	55,974 人	70,000 人
施策 4-5:生涯スポーツの推進	水泳教室・運動教室等の参加者数	534 人	800 人
	体育施設の利用者数	57,977 人	87,000 人
施策 3-1:緑化都市・景観づくりの推進	桑折町文化記念館※の来場者数	5,700 人	7,000 人
施策 6-2:歴史まちづくりの推進	町歴史案内人の利用者数	600 人	700 人
	「史跡桑折西山城跡を守る会」会員数	0 人	100 人
	桑折西山城跡の来場者数	1,900 人	2,500 人

※令和5年9月に種徳美術館を用途廃止し、旧伊達郡役所として管理

第4章 基本的な施策の方向

基本構想Ⅰ 学びの環境づくりの推進

<目指す姿>

町民誰もが学びやすい環境が整っています。

<基本的な施策の方向>

1 生涯学習関連施設の整備・管理運営と効果的な利活用

生涯学習活動の中心的な場である社会教育・社会体育施設を地域住民が主体的に活用できるよう、施設の計画的な整備と適正な管理運営に努めるとともに、幅広い年代のニーズに対応できる多様な学習の場として、各施設の効果的な利活用を図ります。

<施策の主な内容>

(1) 公民館機能の充実

【教育文化課】

中央公民館と地区公民館の役割分担のもと、住民ニーズを反映した公民館事業の拠点として、公民館機能の充実を図ります。

- ①中央公民館：各地区が連携した事業の実施、全地区住民を対象とする事業
- ②地区公民館：地域の特色ある（地域ニーズ）事業を展開

(2) 図書室の充実と利活用の推進

【教育文化課】

読書人口拡大のため、図書室の魅力ある蔵書収集やオンライン予約の利用促進、学習スペースの充実など、日常的な利活用を推進します。

(3) 施設の利便性向上

【教育文化課】

施設のオンライン予約に向けた検討など、施設の利便性向上を図ります。

(4) 施設の計画的な整備と適正な管理運営

【教育文化課】

社会教育・社会体育施設の安全と機能の充実を図るため、施設の計画的な整備を行うとともに、適正な管理運営に努めます。

2 誰もが参加しやすい環境づくりの推進

町民誰もが、いつでも、どこでも学習活動を気軽に始めることができ、生涯にわたって学びを続けられるよう、生涯学習に参加しやすい環境整備を推進します。仕事と育児・介護の両立や高齢者・障がい者などを支援する事業の充実により、学習機会や社会参加機会拡大のための環境づくりを推進します。

<施策の主な内容>

(1) 参加しやすい環境整備の推進

【教育文化課、健康福祉課】

子育て世代、仕事で時間が取れない方、高齢者、障がい者などを支援する事業の充実により、参加しやすい環境づくりを推進します。

3 地域人材の活用に向けた発掘と養成

生涯学習活動を支援・サポートする担い手として活用するため、地域の中から有望な人材を発掘し養成します。また、担い手が有する様々な知識・技術・能力を地域に還元し、「学びの循環」を構築することで、生涯学習の振興を図り、地域の活性化につなげます。

また、学習者のニーズと学習資源を調整するコーディネーターの充実や、「開かれた学校づくり」による学社連携・融合を推進し、地域の教育力向上やボランティア活動の推進を図ります。

中学校部活動を地域の組織や団体が実施するスポーツ・文化活動に委ねる部活動地域移行については、段階的に取り組み、地域の実情に応じて人材の発掘と活用を図ります。

<施策の主な内容>

(1) 地域人材の発掘と担い手の養成

【教育文化課】

学校支援を中心に活用している「人材協力支援バンク登録名簿」について、公民館事業など学習ニーズに合わせた活用を進めます。また、新たな人材の発掘や、学習支援の幅を広げることが目的とした、講師役やコーディネーターなどの担い手チームの養成も進めます。

(2) コーディネーターの充実

【教育文化課】

多様な学習・スポーツ等の活動機会を希望する学習者と、関係施設・機関や講師役等を円滑につなげられるコーディネーターの人材育成・充実を図ります。

地域学校協働活動^{※1}については、教育職経験者を公民館運営推進員・地域学校協働活動推進員として配置し、学校支援を中心に行っていきます。また、派遣可能なボランティアについての情報を学校へ提供します。

(3) ボランティア活動の推進

【教育文化課】

地域学校協働活動^{※1}として、教育機関のニーズをうかがいながら、的確にサポーターを派遣し、学校支援を中心に事業の推進を図ります。

(4) 学校部活動地域移行の推進

【教育文化課】

令和5年2月に、行政・地域団体・学校・保護者などからなる関係者協議会を設置し、具体的な検討に入りました。基本理念を「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」とし、新たな地域スポーツ・文化芸術活動の環境の構築に向けて、中学校と連携し、地域人材の発掘に努めながら、国のガイドラインを踏まえた地域移行を目指します。



ファミリー文庫（読み聞かせボランティアサークル）
による醸芳幼稚園での読み聞かせ



醸芳小学校児童へ王林（桑折町発祥）について
説明する地域学校協働活動サポーター

※1 地域学校協働活動：地域の高齢者、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体等の幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働を行う様々な活動。

基本構想Ⅱ 学びの機会の提供と充実

<目指す姿>

町民の多様な学習ニーズと、ライフステージに対応した学習機会が充実しています。

<基本的な施策の方向>

1 広報・情報発信の充実

生涯学習に関する情報は、「広報こおり」や「お知らせ版」を利用している町民が半数以上となっています。今後はデジタル社会に対応し、さらなる利便性や即時性の向上を図るため、デジタル活用による情報発信も推進します。

情報発信の内容については、町内の様々な生涯学習の情報を一元的に取りまとめ、わかりやすい形で発信することで、学習活動の啓発や、参加するきっかけづくりを推進します。

<施策の主な内容>

(1) デジタル活用による情報発信の推進

【教育文化課】

生涯学習の事業告知や実施内容等の情報発信については、従来の紙媒体に加えてデジタル活用（ホームページやLINE等のSNS）による広報を推進します。

(2) 効果的な情報提供の推進

【教育文化課】

生涯学習に関する情報については、広報紙やチラシ、SNS等を活用するとともに、内容の整理や表現などを工夫して、町民にわかりやすく提供します。

(3) 啓発・奨励によるきっかけづくり

【教育文化課】

趣味や教養、キャリアアップ等の自己啓発のための学習に加えて、現代的課題に対する学習など、全国的な動向や先進事例等を調査・研究し、町民等に広く提供することで、生涯学習の啓発・奨励によるきっかけづくりを推進します。

2 多様な学習機会の提供と充実

社会情勢の急激な変化や、高度化・多様化した町民の学習ニーズに応えるため、オンラインによる学習機会の提供などをはじめ、乳幼児期から高齢期までの各ライフステージに応じた魅力ある学習機会の提供と内容の充実を図ります。

また、主体的な学びの基本となる読書活動を推進する事業を展開していきます。

<施策の主な内容>

(1) ライフステージに応じた魅力ある学習機会の提供 【関係各課】

乳幼児期、少年期、青年期、成人期、高齢期の各ライフステージに応じて、求められる知識や技能を適切に提供することができる創造的で活力ある活動を展開していくとともに、内容の充実を図ります。

(2) オンラインによる生涯学習講座の充実 【総合政策課、教育文化課】

これまでの公民館講座などの集う・体験するといった形態に加えて、アフターコロナにおけるデジタル社会の進展を見据え、時間や場所の制約が少ないオンラインを活用した生涯学習講座の充実を図ります。

また、デジタルデバイド^{※1}に配慮して、タブレットやスマートフォン教室を積極的に開催し、情報通信機器等の利活用支援を推進します。

(3) 読書活動の推進 【教育文化課】

幼児期から本の読み聞かせなども積極的に取り組むとともに、読書を気軽に親しめるよう、町民の読書活動を推進します。

(4) 現代的課題に対する学習の充実 【関係各課】

急激な社会情勢の変化に伴う、社会人の学び直し（リカレント教育）へのニーズ、現代的な諸問題に関する学習を支援するため、キャリアアップセミナーの開催、ジェンダー平等や環境問題等を学ぶ学習機会の場を設けるとともに、時機を得た積極的な情報提供や、企業及び大学等との連携・協力による学習内容の充実を図ります。

※1 デジタルデバイド：各種通信技術を利用したり使いこなしたりできる人とそうでない人との間に生じる貧富や機会、社会的地位などの格差のこと。

3 芸術・文化活動の充実

「歴史と文化の町」や「文化の香り高いまちづくり」のため、町民の芸術・文化活動を積極的に奨励・支援するとともに、町民が身近に芸術・文化に触れる機会の創出に努めます。

<施策の主な内容>

(1) 芸術・文化活動の振興 【教育文化課】

各種団体の自主的な芸術・文化活動を奨励・支援します。

また、著名人による講演会を開催するなど、芸術・文化の振興を図ります。

(2) 鑑賞・活動機会の提供 【教育文化課】

町民が町内外で身近に音楽、演劇などを楽しめる芸術鑑賞や、芸術・文化活動を行う機会の提供を図ります。

4 生涯スポーツ活動の推進

町民の健康志向の高まりや余暇時間の増大に対応するとともに、地域コミュニティの再構築のため、地域に根差した生涯スポーツを推進します。

<施策の主な内容>

(1) 生涯スポーツによる健康づくりの推進 【健康福祉課、教育文化課】

町民の健康の保持・増進や生きがいづくりのため、子どもから高齢者まで楽しめる生涯スポーツを奨励します。

また、専門的な知識を有する方による講演会等の実施により、健康に対する町民の意識を高め、運動の習慣化につなげます。

(2) 競技スポーツの推進 【教育文化課】

市町村対抗野球大会への参加や全国大会出場者への激励金贈呈、専門的な知識を有する方によるスポーツ教室の開催など、競技スポーツの推進を図ります。

(3) スポーツ関係団体の活動支援 【教育文化課】

町スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ「マルベリーこおり」など、関係団体の主体的な活動を奨励・支援します。

5 歴史や文化等、地域資源を生かした学習機会の提供と充実

町の誇りである、歴史や文化等の豊かな地域資源を次世代へ引き継ぐとともに、町の発展・活性化へとつなげるため、保存・継承に関する学習活動や文化財の利活用を推進します。

<施策の主な内容>

(1) 「歴史まちづくり」をはじめとした地域資源に関わる学習機会の提供 【関係各課】

講演会や歴史案内人事業など、郷土愛を育む「歴史まちづくり」をはじめ、桃等の特産品や「半田山自然公園」、「ピーチリバーク 157」等の豊かな地域資源に関わる学習機会の提供を推進します。

(2) 文化財の利活用推進 【教育文化課】

『桑折西山城を守る会』など、地域の関係団体との協働により、史跡桑折西山城跡や旧伊達郡役所など、文化財の保存、活用の充実を図ります。



子ども歴史案内人が町の歴史を案内（桑折西山城まつり）



開庁140周年を記念した「旧伊達郡役所・誕生祭」

基本構想Ⅲ 学びを生かしたまちづくりの推進

<目指す姿>

町民が学びの成果を各分野で生かし、まち全体が元気で豊かになっています。

<基本的な施策の方向>

1 学習成果の発表と活用の推進

学習活動において習得した成果を発表する機会や、その知識を生かして活躍できる場の創出に努め、町民の生きがいづくり、学習者のさらなる学習意欲の向上を図ります。

また、学習活動を通じた仲間づくりや新たな人間関係の形成により、地域社会の活性化を推進します。

<施策の主な内容>

(1) 成果の発表や活躍の場・機会の創出 【関係各課】

学校や公民館、地域づくり活動において習得した成果を発表する機会や活躍の機会の創出に努めます。

(2) 学びを通じた地域活性化の推進 【関係各課】

学習活動を通じた人と人との新たな結びつきにより、地域でのつながりを強め、地域活性化の力を生み出します。

2 町民参画によるまちづくりの推進

桑折町総合計画「献上の桃の郷こおり 未来躍動プラン」の町の将来像である「みんなが幸せを実感できる 元気なまち こおり」の実現のため、まちづくりに関する学習や地域活動を積極的に支援し、町民参画によるまちづくりを推進します。

<施策の主な内容>

(1) まちづくり研究の推進 【関係各課】

まちづくりや地域活動に関する先進事例等を調査・研究し、町民がまちづくりに参画するきっかけづくりを推進します。

(2) 身近な地域づくり活動の奨励・支援 【関係各課】

交通安全、防犯、防災、環境美化、緑化推進、住民自治組織の充実、地域活動の支援及びボランティア活動等を推進します。

第5章 計画の推進にあたって

1 計画の周知

生涯学習活動を推進するために、本計画を関係者や関係機関に周知するとともに、広報紙や町ホームページの活用、公共施設における閲覧等を通じて町民に対し広く周知を行います。

2 事業計画の策定

本計画に連なる個々の具体的な事務事業については、年次毎に「事業計画」として策定し、全庁的な推進を図ります。

3 計画の進行管理

本計画に基づく施策を効果的に推進するために、PDCA サイクル^{※1}により、実施状況や事業成果を踏まえ、随時、計画の必要な見直しを図ります。また、「生涯学習推進本部」及び「生涯学習推進会議」において、取組みの進捗状況の確認を行うとともに、生涯学習推進のための協議・検討を行っていきます。

進捗状況については、学識経験者、学校教育関係者、社会教育関係者等から構成される「社会教育委員の会議」へ報告し、意見を聴取します。

さらに、アンケート調査等により、町民の詳細な状況や意見を踏まえ、本計画の総合的な評価を行います。

4 計画の推進体制

生涯学習の取組みは、町の様々な分野の部署に関係しているため、所管課と関係部署が連携しながら、本計画に掲げる施策の推進を図ります。

本計画の推進にあたっては、町民をはじめ、NPO、ボランティア、教育機関、事業者等、生涯学習に関わるすべての主体との連携も欠かせないことから、各主体との連携、協働により取組みを進めていきます。

(1) 生涯学習推進組織の充実

「生涯学習推進本部」において、各行政分野の積極的な連携による庁内全体が一体となった生涯学習を総合的・効率的に推進するとともに、「生涯学習推進会議」において、町民の意見

※1 PDCA サイクル：Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の頭文字からきており、4つの階段を繰り返すことで業務を継続的に改善する方法。

や学習要求等を反映した総合的・効果的な推進方策の充実を図り、町民参画によるまちづくりのための生涯学習推進組織の充実を図ります。

(2) 町民の学習ニーズの把握

学習機会や施設利用に対する要望など、生涯学習に対する町民ニーズを的確に把握し、生涯学習推進施策・事業内容につなげます。

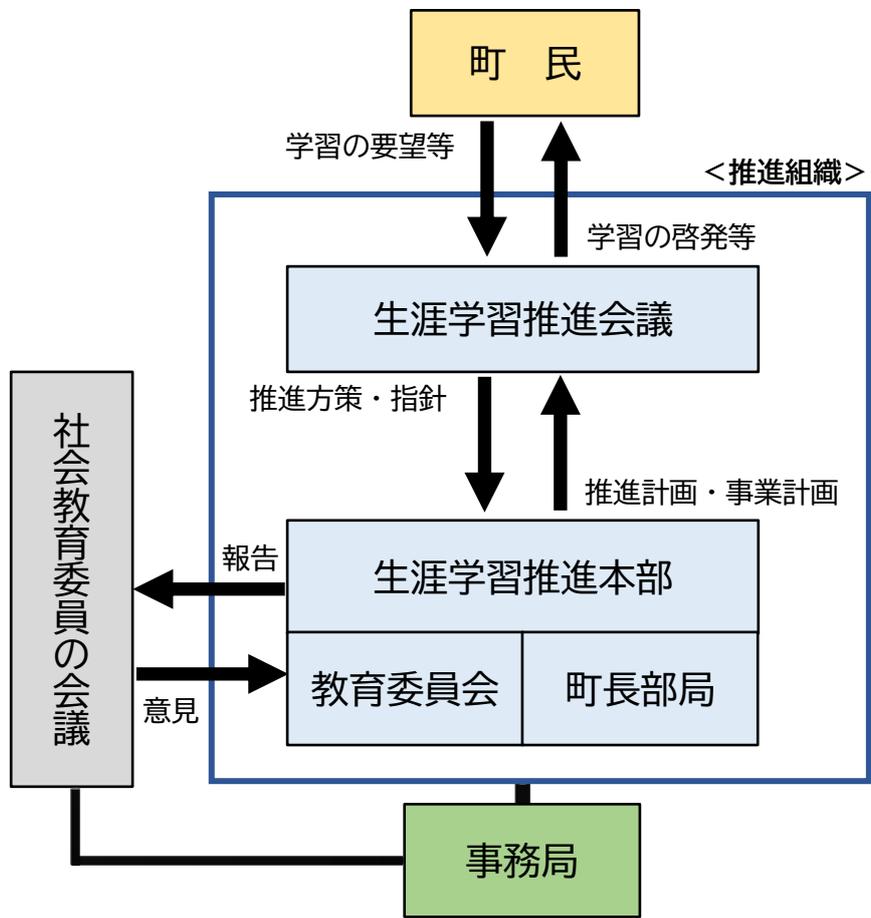
(3) 生涯学習に関する調査・研究の推進

本町の生涯学習推進が常に効率的・効果的で実効性のあるものとなるよう、全国的な動向や先進的な取組み等について調査・研究を進め、町民・関係団体・企業等に広く提供していきます。

(4) 職員体制の充実

学習相談・学習活動を支援する専門職員の資質の向上及び充実を図ります。

桑折町生涯学習推進組織図



生涯学習推進会議

【役割】町民総ぐるみの生涯学習を推進するために、町民の意見等を反映した総合的、効果的な推進方策を提言する組織として、次の事項を協議する。

- ・生涯学習推進体制に関すること。
- ・生涯学習関係事業の総合的、効果的な推進方策に関すること。
- ・町民の意見・学習要求等の反映と具現化の方策に関すること。
- ・生涯学習推進に関する町民への啓発等に関すること。

【構成】委員は、関係団体及び学識経験者等から推進本部長が委嘱する。

生涯学習推進本部

【役割】生涯学習推進は町民生活に関わる諸施策全般に及ぶものであるという総合行政の視点から、各行政分野の積極的な連携による、庁内一体となった生涯学習の総合的・効率的な推進を図る組織として、次の事項を協議する。

- ・生涯学習推進体制の整備に関すること。
- ・生涯学習関係事業の総合的、効果的な推進計画に関すること。
- ・生涯学習関係事業及び関係機関との連携に関すること。
- ・生涯学習に関する学習プログラム及び事業の開発に関すること。
- ・生涯学習推進に関する町民への奨励・普及に関すること。

【構成】本部長は町長、副本部長は副町長・教育長とし、本部員は各課等の長とする。

事務局

【役割】推進組織の事務を処理する。

【構成】事務局長は教育文化課副参事とし、事務局員には生涯学習係員があたる。

資料編

1 計画策定の経過

日付	内容
令和5年2月22日 ～3月10日	○生涯学習に関する町民アンケートの実施 ・本町に住民登録している15歳以上の町民1,000人 ・郵送配布、郵送回収、WEB回答併用 ・有効回収率64.5%
令和5年5月17日	○第1回生涯学習推進本部会議（庁内） ・生涯学習に関する町民アンケート（R5.2実施）調査結果概要について ・本計画（第3次）策定に係る情勢分析・課題整理について
令和5年5月29日	○町生涯学習推進アドバイザー委嘱及び庁内勉強会 ・三瓶千香子 アドバイザー（桜の聖母短期大学 教授）による講演 「人生100年時代におけるコーディネーターの重要性 ～場を創る・話を拾う・人をつなげる～」
令和5年5月29日	○第1回生涯学習推進会議（関係団体や有識者等で構成） ・生涯学習に関する町民アンケート（R5.2実施）調査結果概要について ・本計画（第3次）策定に係る情勢分析・課題整理について
令和5年6月27日	○第2回生涯学習推進本部会議（庁内） ・本計画（第3次）の基本理念・基本構想（案）について
令和5年7月10日	○第2回生涯学習推進会議（関係団体や有識者等で構成） ・本計画（第3次）の基本理念・基本構想（案）について
令和5年8月25日	○第1回社会教育委員の会議（関係団体や有識者等で構成） ・令和5年度教育委員会重点について ・生涯学習推進基本計画（第3次）の策定について ほか
令和5年10月23日	○第3回生涯学習推進本部会議（庁内） ・素案の検討・協議
令和5年11月6日	○第3回生涯学習推進会議（関係団体や有識者等で構成） ・素案の提示、検討・協議
令和5年11月15日 ～11月29日	○パブリックコメントの実施 ・意見提出数 0件
令和5年12月15日	○第4回生涯学習推進本部会議（庁内） ・計画案の検討・協議
令和5年12月25日	○第4回生涯学習推進会議（関係団体や有識者等で構成） ・計画案の提示、検討・協議
令和5年12月26日	○第5回生涯学習推進本部会議（庁内） ・計画の決定

2 桑折町生涯学習推進会議設置要綱

令和4年4月1日告示第197号

(目的)

第1条 桑折町生涯学習推進基本計画（以下「基本計画」という。）の着実な推進を図り、町民のいきがづくりや地域コミュニティの向上に資するため、桑折町生涯学習推進会議（以下「推進会議」という。）を設置する。

(任務)

第2条 推進会議は、次に掲げる事項について協議する。

- (1)生涯学習推進体制に関する事。
- (2)生涯学習関係事業の総合的、効果的な推進方策に関する事。
- (3)町民の意見及び学習要求等の反映と具現化の方策に関する事。
- (4)生涯学習推進に関する町民への啓発等に関する事。
- (5)その他、基本計画の推進に必要な事項に関する事。

(組織)

第3条 推進会議の委員は、15名以内とし、関係団体及び学識経験者等のうちから町長が委嘱する。

- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 委員に欠員が生じたときの補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 推進会議に、会長1名及び副会長1名を置き、委員の互選により選出する。
- 5 会長は、推進会議を代表し、会務を総理する。
- 6 副会長は、会長を補佐するとともに、会長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 7 委員のほか、専門知識を有する者をアドバイザーとして置くことができる。

(会議)

第4条 推進会議は、必要に応じ会長が招集し、会議の議長となる。

- 2 推進会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 推進会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 4 推進会議は、協議等を円滑に進めるため、必要な場合には関係者に出席を求め、意見または説明を聞くことができる。

(事務局)

第5条 推進会議の事務は、町教育委員会教育文化課において処理する。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、推進会議の運営に必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 桑折町生涯学習推進会議設置要綱（平成28年桑折町告示）は、廃止する。

3 桑折町生涯学習推進本部設置要綱

令和4年4月1日訓令第23号

(目的)

第1条 桑折町生涯学習推進基本計画（以下「基本計画」という。）に基づき、町行政等が一体となって生涯学習の効果的な推進とその普及を図るため、桑折町生涯学習推進本部（以下「推進本部」という。）を設置する。

(任務)

第2条 推進本部は、次に掲げる事項について審議する。

- (1)生涯学習推進体制の整備に関すること。
- (2)生涯学習関係事業の総合的、効果的な推進計画に関すること。
- (3)生涯学習関係事業及び関係機関との連携に関すること。
- (4)生涯学習推進に関する学習プログラム及び事業の開発に関すること。
- (5)生涯学習推進に関する町民等への奨励普及に関すること。
- (6)その他、基本計画の推進に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 推進本部は、本部長、副本部長及び本部員をもって構成する。

- 2 本部長は、町長をもって充てる。
- 3 副本部長は、副町長及び教育長をもって充てる。
- 4 本部員は、別紙に掲載の役職にある者をもって充てる。
- 5 本部長は、推進本部を総括する。
- 6 副本部長は、本部長を補佐するとともに、本部長に事故あるときは、あらかじめ本部長が指名した順位により、その職務を代理する。

(会議)

第4条 推進本部会議は、必要に応じ本部長が招集し、会議の議長となる。

- 2 推進本部会議は、構成員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 推進本部会議は、審議等を円滑に進めるため、必要な場合には関係者に出席を求め、意見または説明を聞くことができる。

(事務局)

第5条 推進本部の事務は、町教育委員会教育文化課において処理する。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、推進本部の運営に必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 桑折町生涯学習推進本部設置要綱（平成28年桑折町告示）は、廃止する。

別紙

本部員 総務課長
税務住民課長
総合政策課長
健康福祉課長
産業振興課長
建設水道課長
建設水道課副参事
生活環境課長
会計管理者
教育文化課長
教育文化課副参事
議会事務局長

4 桑折町生涯学習推進会議委員名簿

【委員】

任期：令和4年11月7日～令和6年3月31日

No.	区分	所属団体名	氏名	摘要
1	住民自治活動	桑折地区住民自治協議会	佐藤 勲	
2	//	睦合地区住民自治協議会	佐藤 英義	
3	//	伊達崎地区住民自治協議会	岡崎 善右エ門	
4	//	半田地区住民自治協議会	渡邊 健児	
5	青少年活動	ボーイスカウト桑折第1団	松浦 俊充	
6	ボランティアサークル	ファミリー文庫「コスモス」	田中 育子	
7	老人クラブ活動	桑折町老人クラブ連合会	河口 潔	
8	芸術・文化活動	桑折町文化団体連絡協議会	大槻 純子	
9	保健体育活動	総合型地域スポーツクラブ 「マルベリーこおり」	佐藤 淳未	
10	社会福祉活動	(社福)桑折町社会福祉協議会	浜田 広美	副会長
11	PTA 代表	桑折町 PTA 連絡協議会	大槻 睦子	
12	子育て世代	保育所保護者	五十嵐 光	
13	学識経験者	前桑折町教育委員会 教育指導主事	中村 利幸	会長
14	一般	公募	高橋 貢	
15	一般	公募	蓬田 澄音	

【生涯学習推進アドバイザー】

所属	職名	氏名	摘要
桜の聖母短期大学	キャリア教養学科 教授	三瓶 千香子	令和5年5月29日委嘱

【事務局】

区 分	職 名	氏 名
桑折町教育委員会	参事兼教育文化課長	長谷部 清治
//	教育文化課副参事	佐藤 克彦
//	教育文化課 主任主査兼生涯学習係長	斉藤 雅史
//	教育文化課主任学芸員	井沼 千秋
//	教育文化課主任主査	鈴木 真英
//	教育文化課主査	本田 卓也
//	教育文化課主査	丹治 愛莉
//	教育文化課主事	谷津 朋征
//	中央公民館長	伊藤 好幸
//	公民館運営推進員	旗野 宣久
//	公民館運営推進員	野木 由美子

5 生涯学習関連施設一覧

【公民館施設】

施設名		所 在	施設概要
中央公民館	中央公民館 (イコーゼ!内)	大字上郡字弁慶 20-1	
	中央公民館分室 (遊学館「よも～よ」)	大字谷地字道下 6-1	図書室1、図書室2、えほんのへや
地区館	桑折公民館 (桑折町民会館)	字桑島三 103	ホール、小ホール、会議室、日本間、小日本間、調理室
	睦合公民館 (睦合ふれあい公民館)	大字成田字坊ノ内 19-1	ホール、日本間、会議室、調理室
	伊達崎公民館	大字下郡字堂ノ前 11-1	日本間、研修室、和室、調理室
	半田公民館 (半田コミュニティセンター)	大字南半田字八反田 10-1	大会議室、小会議室、和室、調理室

【体育施設】

施設名		所 在	施設概要
複合施設	屋内温水プール・多目的スタジオ	大字上郡字弁慶 20-1	温水プール、多目的スタジオ、多目的プレイルーム、ベイビーズルーム、キッズルーム、キッズランニングコース、
体育館	桑折町民体育館	大字上郡字林泉寺前 1-1	バスケットコート1面、バレーボールコート2面、バドミントンコート3面、卓球台3台
テニスコート	桑折テニスコート	大字上郡字弁慶 25-1	全天候型サンドグラスコート3面
運動場	桑折町民運動場	大字上郡字弁慶 1	陸上競技 300mトラック、野球場2面

【文化施設】

施設名	所 在
旧伊達郡役所	字陣屋 12

【その他の施設】

施設名	所 在
桑折町地域交流センター	字桑島二 21-1

6 生涯学習に関する町民アンケート調査結果概要

I 調査概要

1. 調査の目的

桑折町では、「桑折町生涯学習推進基本計画（第2次）」を平成27年12月に策定し、生涯学習の推進を図ってきた。

現在の少子高齢社会に伴う社会活力の低下のおそれや共働き家庭の一般化、地域コミュニティの希薄化、さらには個人の価値観やライフスタイルの多様化、ICTの急速な進化など、桑折町の生涯学習施策を取り巻く状況は大きく変化している。そのような状況を踏まえ、現代社会における課題に対応した桑折町の生涯学習について、町民ニーズや課題等を整理し、「桑折町生涯学習推進基本計画（第3次）」の策定に向けた基礎資料とすることを目的とした。

2. 調査期間

郵送調査：令和5年2月22日（水）～令和5年3月10日（金）

WEB調査：令和5年2月22日（水）～令和5年3月10日（金）

※集計は令和5年3月15日（水）回収分までを含む

3. 調査対象

町内に住民登録をしている15歳以上の町民のうち、無作為に抽出された1,000人

4. 調査方法

無記名のアンケート調査

（郵送配布・郵送回収・調査票に記載のURLやQRコードからのWEB回答併用）

5. 回収状況

配布数①	郵送回収数	WEB回答数	無効数	有効回収数②	有効回収率 ②/①
1,000	554	93	2	645	64.5%

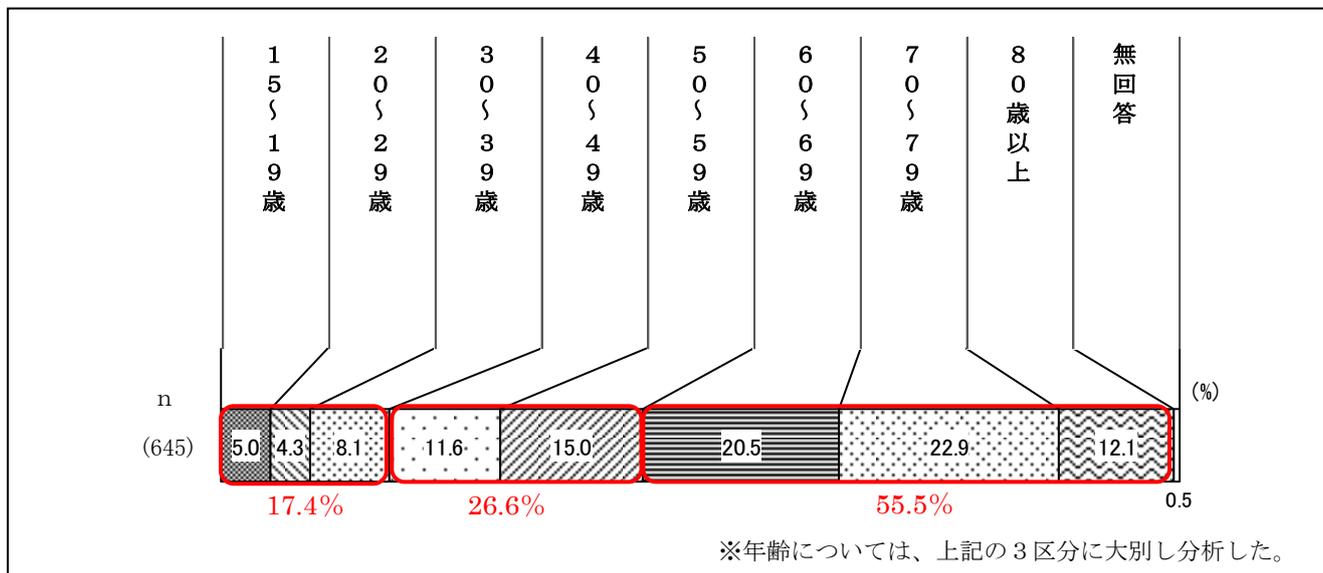
6. 調査結果の見方

- (1) n (number of cases) は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。したがって、単一回答形式の質問においては、回答比率を合計しても100.0%にならない場合がある。また、回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答形式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、すべての選択肢の比率を合計すると100.0%を超える。
- (3) 図表及び本文で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- (4) 調査数（n値）が少数のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。

II 調査結果の詳細

1. 基本属性

- 回答者の性別については、「男性」が48.8%、「女性」が50.1%となっている。
- 回答者の年齢については、「70～79歳」が22.9%と最も多く、以下、「60～69歳」(20.5%)、「50～59歳」(15.0%)、「80歳以上」(12.1%)となっており、60歳代以上が半数以上を占める。



- 回答者の現在の居住地区については、「桑折地区」が44.3%と最も多く、以下、「半田地区」(25.9%)、「伊達崎地区」(15.2%)、「睦合地区」(13.8%)となっている
- 回答者の職業については、「無職」が26.4%と最も多く、以下、「会社員」(25.4%)、「自営業・農業」(14.3%)、「パート・アルバイト」(12.7%)となっている。

2. 生涯学習の活動状況や興味について

生涯学習については、8割以上の方が『重要である』と回答しています。年代が下がるにつれて、その割合が多くなっています。

現在の運動・活動の状況は、「健康づくり・運動に関すること」、「趣味・芸術に関すること」、「情報社会に必要な知識・技能に関すること」などが上位となっています。

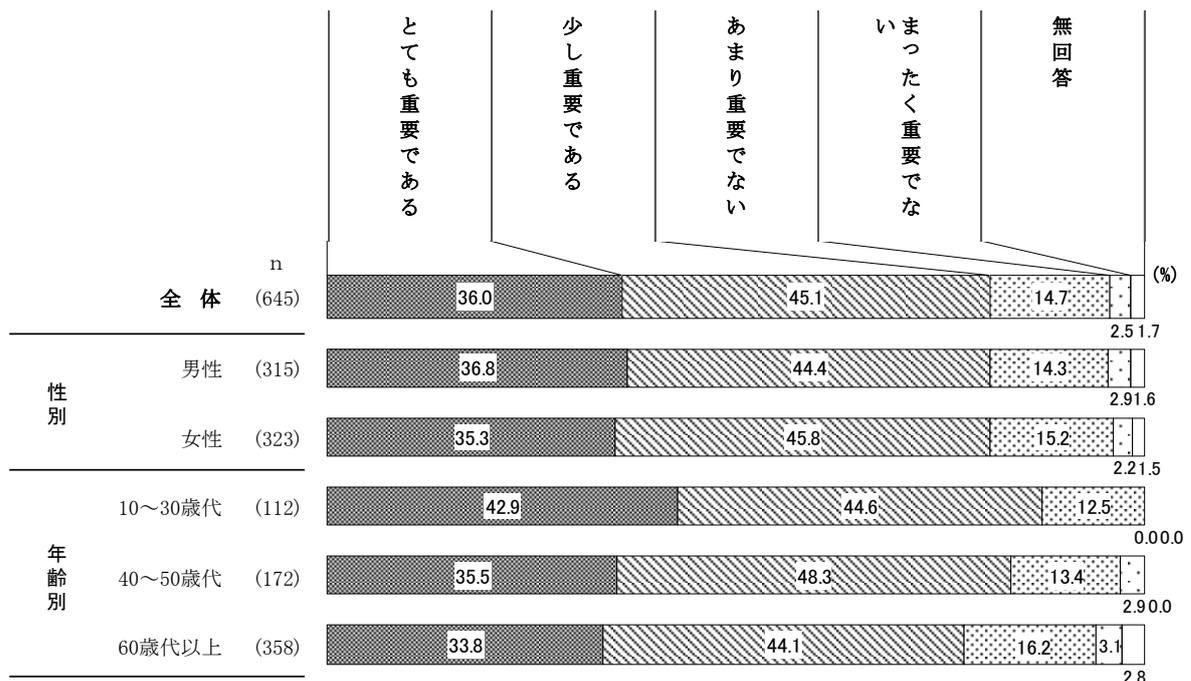
今後やりたいことは、「健康づくり・運動に関すること」、「高齢社会に伴う終活・人生設計に関すること」が4割以上、「家庭生活に役立つ技能に関すること」、「情報社会に必要な知識・技能に関すること」が3割以上となっており、健康増進をはじめ、日常生活や人生で具体的に役立つ内容を学習したいという希望がうかがえます。

一方、運動・活動を行っていない人は、きっかけがないことや仕事が忙しいこと、魅力を感じないことなどを理由に挙げています。

生涯学習をしたい場所や形態については、公の機関における講座や教室だけでなく、自宅であったり、場所や形態はこだわらないとする回答も2割以上と多くなっていることから、個人の状況に合わせた生涯学習をどのように支援していくのか考えていく必要があります。

- 生涯学習のイメージについては、「幼児期から高齢期まで、生涯を通じて学ぶこと」が56.6%と最も多く、以下、「生活を楽しみ、心を豊かにできる活動をすること」(56.1%)、「趣味・教養を高めること」(51.6%)、「高齢者の生きがいづくり」、「公民館や生涯学習センターなど、公の機関が提供する講座や教室における学習活動」(ともに40.9%)となっている。
- 「生涯学習」の重要度については、「少し重要である」が45.1%と最も多く、以下、「とても重要である」(36.0%)、「あまり重要でない」(14.7%)、「まったく重要でない」(2.5%)となっており、『重要である』と回答している人は80%を超える。

【属性別／「生涯学習」の重要度】



■現在の運動・活動の状況を見ると、＜現在も今後行う＞は、「健康づくり・運動に関すること」が32.2%と最も多く、以下「趣味・芸術に関すること」(29.1%)、「情報社会で必要な知識・技能に関すること」(29.0%)、「教養に関すること」(23.3%)となっている。

また、＜していないが今後やりたい＞は、「健康づくり・運動に関すること」が45.0%と最も多く、以下「高齢社会に伴う終活・人生設計に関すること」(42.9%)、「家庭生活に役立つ技能に関すること」(39.8%)、「情報社会で必要な知識・技能に関すること」(35.5%)となっている。

【属性別／現在の運動・活動の状況】

【10～30歳代】

順位	現在も今後行う	していないが今後やりたい
1	情報社会で必要な知識・技能に関すること (36.6%)	健康づくり・運動に関すること (56.3%)
2	教養に関すること (37.5%)	家庭生活に役立つ技能に関すること (54.5%)
3	職業上の知識・技能に関すること (34.8%)	職業上の知識・技能に関すること (47.3%)

【40～50歳代】

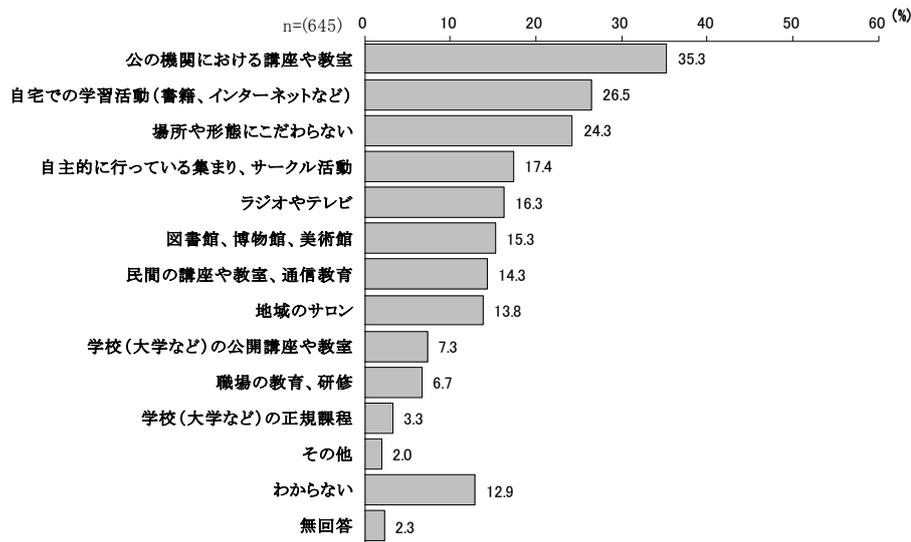
順位	現在も今後行う	していないが今後やりたい
1	情報社会で必要な知識・技能に関すること (34.3%)	健康づくり・運動に関すること (60.5%)
2	職業上の知識・技能に関すること (25.6%)	高齢社会に伴う終活・人生設計に関すること (54.1%)
3	趣味・芸術に関すること (23.8%)	家庭生活に役立つ技能に関すること (47.1%)

【60歳以上】

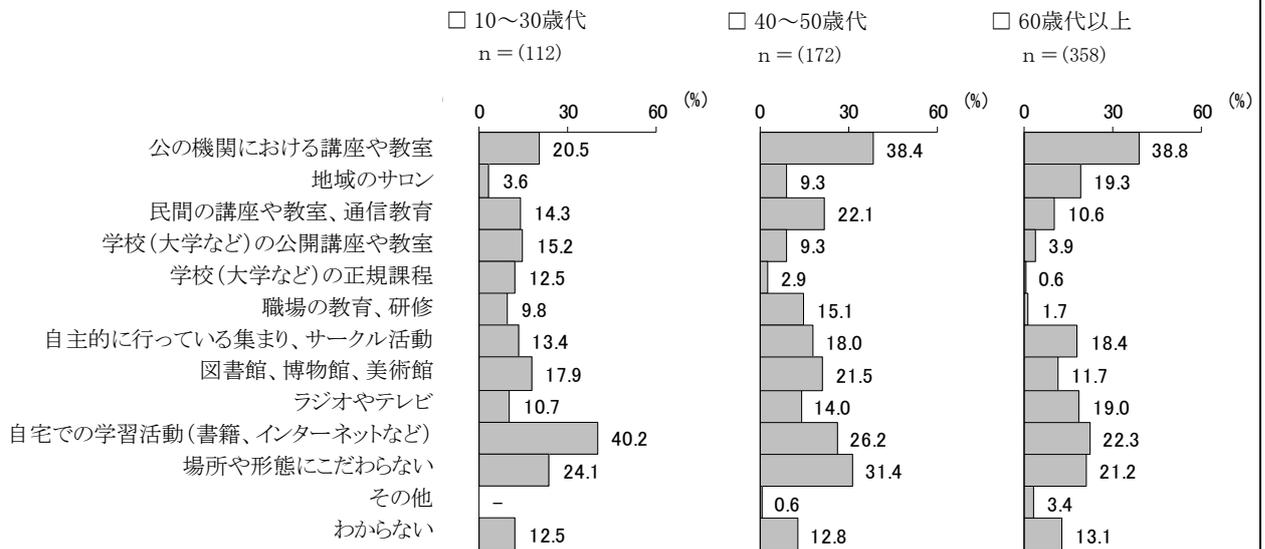
順位	現在も今後行う	していないが今後やりたい
1	健康づくり・運動に関すること (38.8%)	高齢社会に伴う終活・人生設計に関すること (40.2%)
2	趣味・芸術に関すること (31.6%)	健康づくり・運動に関すること (33.8%)
3	情報社会で必要な知識・技能に関すること (24.3%)	家庭生活に役立つ技能に関すること (31.8%)

一方、＜していないし今後もしない＞は、「育児・教育に関すること」が38.6%と最も多く、以下「地域行事などのまちづくり活動に関すること」(35.5%)、「職業上の知識・技能に関すること」(34.7%)、「介護・福祉活動の知識・技能に関すること」(34.4%)となっている。

- 運動や活動を現在もしており今後行うと回答した方、または、していないが今後やりたいと回答した方にその目的をたずねたところ、「健康の維持・増進のため」が57.5%と最も多く、以下、「家庭や日常生活に活用するため」(48.1%)、「その学習が好きで、自分の人生を豊かにするため」(42.0%)、「余暇を有効に活用するため」(36.1%)となっている。
- 運動や活動をしていないし今後もしないと回答した方、または、わからないと回答した方にその理由をたずねたところ、「きっかけがない」が28.3%と最も多く、以下、「仕事が忙しくて時間がない」(25.5%)、「魅力を感じない」(24.1%)、「必要だと思わない」(16.1%)となっている。
- 生涯学習の情報源については、「広報こおり・お知らせ版」が67.6%と最も多く、以下、「町内会からのお知らせ」(19.8%)、「インターネット(パソコン・スマホ等)」、「友人・知人を通じて」(ともに18.3%)、「ポスター・チラシ・パンフレット」(16.9%)となっている。
- 生涯学習をしたい場所・形態については、「公民館や生涯学習センターなどの公の機関における講座や教室」が35.3%と最も多く、以下、「自宅での学習活動(書籍、インターネットなど)」(26.5%)、「場所や形態にこだわらない」(24.3%)、「自主的に行っている集まり、サークル活動」(17.4%)となっている。



【属性別／生涯学習をしたい場所・形態】



3. 公共施設について

公共施設の利用状況については、2割以上の人が「半田山自然公園」、「Legare Koori(レガーレこおり)」、「うぶかの郷」を現在も今後も利用すると回答しています。

また、今後利用したいものとしては、「うぶかの郷」、「半田山自然公園」、「イコーゼ！の屋内温水プール」などが上位となっています。

■この5年間の施設等の利用状況を見ると、＜現在も今後も利用する＞は、「半田山自然公園」が24.0%と最も多く、以下「Legare Koori (レガーレこおり)」（23.3%）、「うぶかの郷」（22.5%）、「遊学館よも～よ」（14.3%）となっている。

また、＜利用していないが、今後利用したい＞は、「うぶかの郷」が28.5%と最も多く、以下「半田山自然公園」（24.3%）、「イコーゼ！の屋内温水プール」（24.0%）、「旧伊達郡役所」（23.7%）となっている。

【属性別／施設等の利用状況】

【10～30 歳代】

順位	現在も今後も利用する	利用していないが、利用したい
1	イコーゼ！の屋内温水プール (30.4%)	イコーゼ！の屋内温水プール うぶかの郷 (ともに 31.3%)
2	ふれあい公園 (ピーチウイング含む) (28.6%)	
3	遊学館よも～よ (26.8%)	Legare Koori (レガーレこおり) (27.7%)

【40～50 歳代】

順位	現在も今後も利用する	利用していないが、利用したい
1	Legare Koori (レガーレこおり) (35.5%)	イコーゼ！の屋内温水プール (36.0%)
2	半田山自然公園 (29.1%)	うぶかの郷 (35.5%)
3	うぶかの郷 (25%)	半田山自然公園 (30.8%)

【60 歳以上】

順位	現在も今後も利用する	利用していないが、利用したい
1	うぶかの郷 (23.7%)	うぶかの郷 (24.0%)
2	半田山自然公園 (23.5%)	旧伊達郡役所 (21.2%)
3	桑折公民館 (町民会館) Legare Koori (レガーレこおり) (ともに 16.8%)	半田山自然公園 (20.9%)

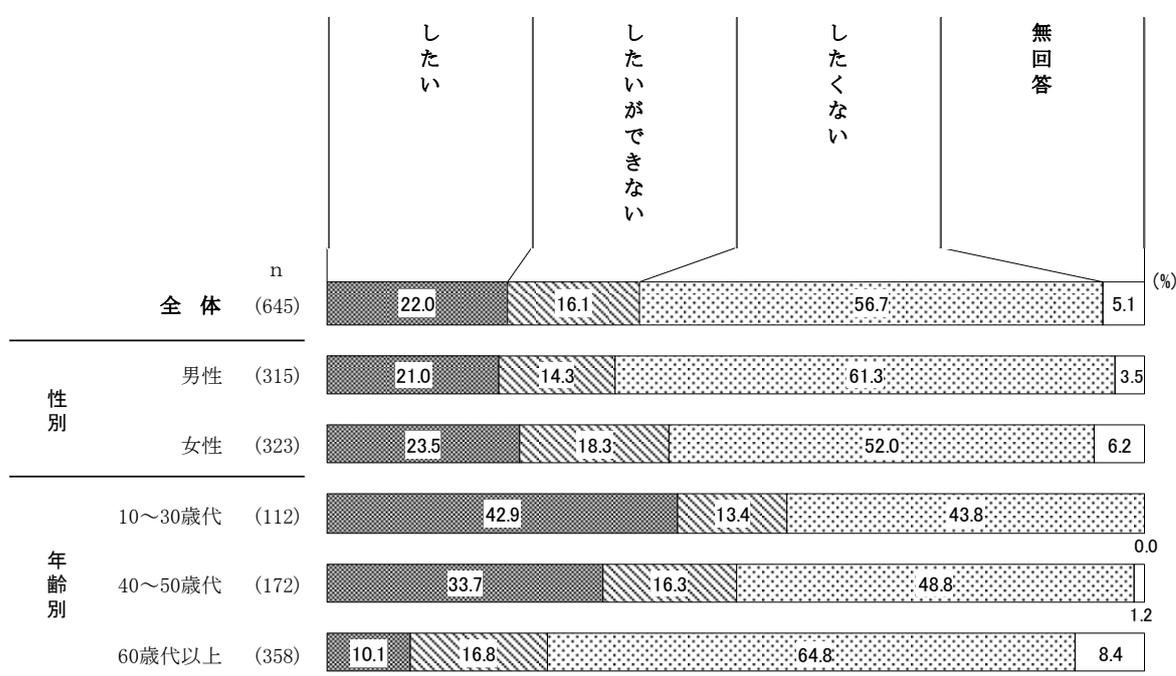
一方、＜利用していないし、今後もしない＞は、「桑折テニスコート」が55.2%と最も多く、以下「伊達崎公民館 (50.2%)」、「イコーゼ！の屋内遊び場」(49.0%)、「睦合公民館 (睦合ふれあい会館)」(48.5%)となっている。

4. オンライン学習について

オンライン学習については、「したくない」と回答している人が多くなっており、パソコン等の使い方がわからないことや、機器を持っていないこと、Wi-Fi などのオンライン学習環境が整っていないことが主な理由となっています。ただし、年代が下がるにつれて「したい」と回答する割合が多くなっています。

- オンライン学習をしたいかたずねたところ、「したくない」が 56.7%と最も多く、以下、「したい」(22.0%)、「したいができない」(16.1%) となっている。「したい」については、年代が下がるにつれて割合が多くなっている。

【属性別／オンライン学習をしたいか】



- オンライン学習をしたいと回答した方にその理由をたずねたところ、「自宅で学習できる」が 76.1%と最も多く、以下、「いつでも自分の好きな時間に学習できる」(72.5%)、「受講料が安価（または無料）」(18.3%)、「人と会わずに学習できる」(17.6%) となっている。
- オンライン学習をしたいができないと回答した方にその理由をたずねたところ、「パソコンやスマートフォン等の機器は持っているが、使い方がわからない」が 44.2%と最も多く、以下、「パソコンやスマートフォン等の機器を持っていない」(26.9%)、「Wi-Fi 等のインターネット環境が整っていない」(25.0%)、「費用がかかる」(20.2%) となっている。

5. スポーツの活動状況や興味について

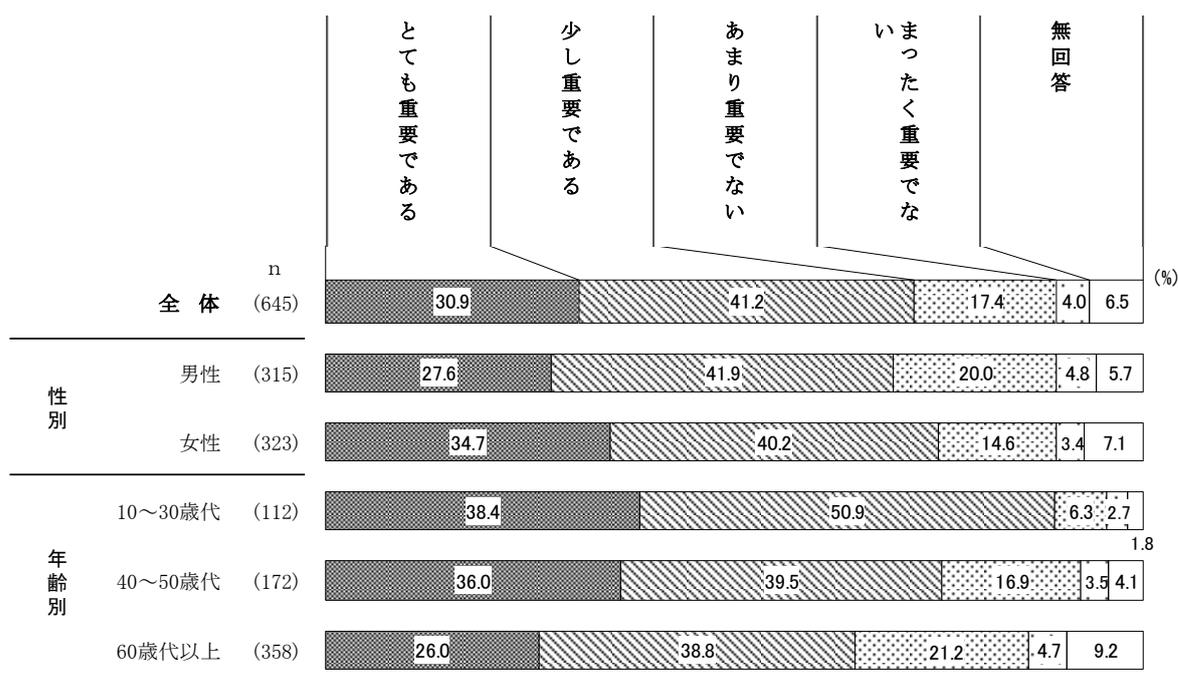
スポーツについては、7割以上の方が「生涯スポーツ」を『重要である』と回答しています。年代が下がるにつれて、その割合が多くなっています。

この1年間で行ったスポーツは、「ウォーキング、散歩、ジョギング」、「体操(ラジオ体操、美容体操など)」、「トレーニング器具を使う運動」など、1人でも行えるスポーツが上位となっています。

今後行ってみたいスポーツは、この1年間で行ったスポーツと同様のスポーツが上位に挙げられており、現在行っているものを今後も続けていきたいとの意向がうかがえます。

- 「生涯スポーツ」はこれからの生活に重要だと思うかたずねたところ、「少し重要である」が41.2%と最も多く、以下、「とても重要である」(30.9%)、「あまり重要でない」(17.4%)、「まったく重要でない」(4.0%)となっており、『重要である』と回答している人は70%を超える。

【属性別／「生涯スポーツ」の重要性】



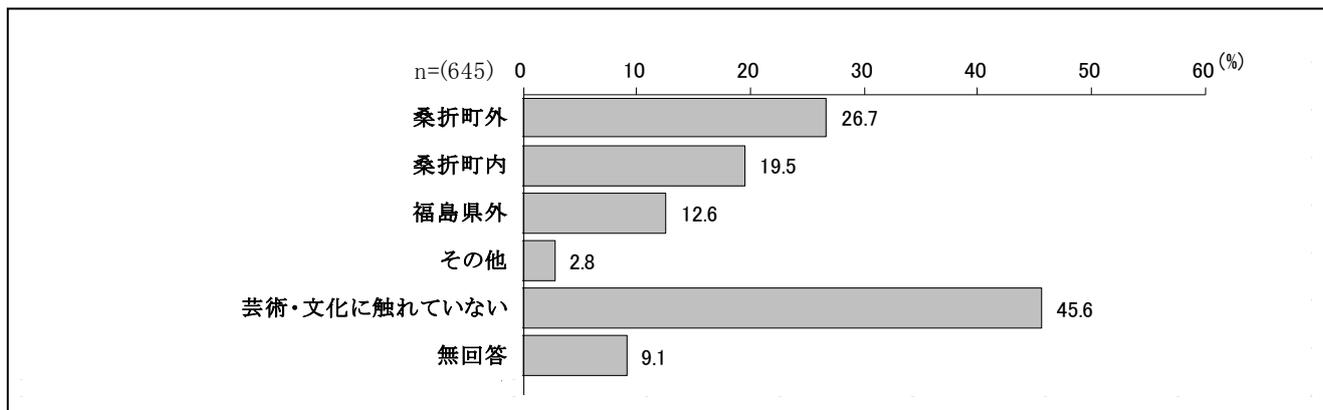
- この1年間に行ったスポーツ（学校の授業や職業で行ったものを除く）については、「ウォーキング、散歩、ジョギング」が44.0%と最も多く、以下、「体操(ラジオ体操、美容体操など)」(23.7%)、「トレーニング器具を使う運動」(8.1%)、「登山、トレッキング、ハイキング」(7.8%)となっている。なお、「スポーツはしなかった」は29.6%となっている。
- 今後行ってみたいスポーツ（現在行っているものを含む）については、「ウォーキング、散歩、ジョギング」が48.4%と最も多く、以下、「体操(ラジオ体操、美容体操など)」(29.8%)、「トレーニング器具を使う運動」(16.6%)、「水泳」(16.0%)となっている。

6. 芸術・文化活動について

芸術・文化鑑賞については、鑑賞の機会に触れている割合は町内より町外が多く、約3割となっています。また、触れていない人が半数近くとなっています。催し物は、「音楽鑑賞」や「演芸、演劇・ミュージカル鑑賞」、「企画展」などが希望されています。

現在活動している芸術・文化活動は、活動している方の半数以上が桑折町内で活動しており、「健康ダンス・ストレッチ・ヨガ」、「パソコン」、「料理」などが代表的なものとなっています。

- 芸術・文化を鑑賞する機会に触れる場所については、「桑折町外」が26.7%と最も多く、以下、「桑折町内」(19.5%)、「福島県外」(12.6%)となっている。なお、「芸術・文化に触れていない」は45.6%となっている。



- 希望する催し物の企画ジャンルについては、「音楽鑑賞」が39.1%と最も多く、以下、「演芸（落語・お笑いなど）」(31.3%)、「演劇・ミュージカル鑑賞」(25.3%)、「企画展（書・写真・絵画など）」(20.9%)となっている。
- 活動している芸術・文化活動については、「健康ダンス・ストレッチ・ヨガなど」が5.3%と最も多く、以下、「パソコン」(5.0%)、「料理」(4.7%)、「盆栽・ガーデニング」(4.0%)となっている。なお、「活動等はしていない」は62.0%となっている。
- 芸術・文化活動をしている方に活動場所をたずねたところ、「桑折町内」が56.6%と最も多く、以下、「福島市」(26.3%)、「県外」(11.1%)、「伊達市」(9.6%)となっている。

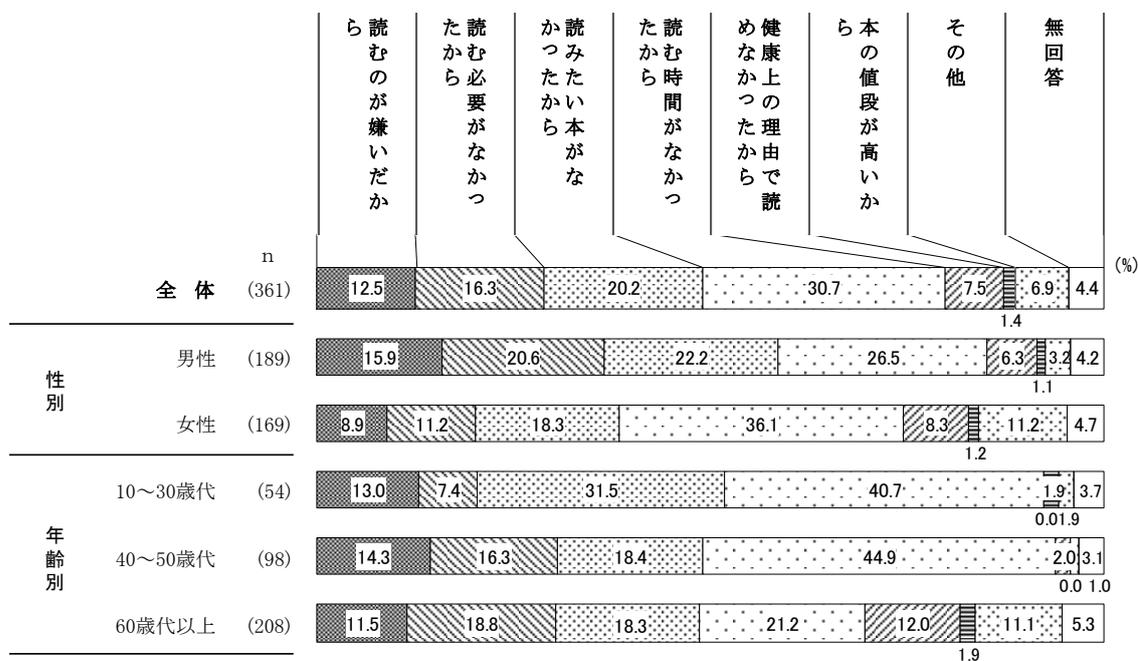
7. 読書活動について

読書活動については、月に1～2冊を読む人が約3割、読んでいない人は半数以上となっています。

この1年間で「遊学館よも～よ」を利用していない人は8割となっていることから、施設の利用促進を進め、読書人口を増やしていく必要があります。

- この1か月での読書冊数については、「1～2冊」が28.4%と最も多く、以下、「3～4冊」(6.7%)、「5～6冊」(3.3%)、「11冊以上」(1.4%)となっている。なお、「読んでいない」は56.0%となっている。
- この1か月に読書をしなかったと回答した方にその理由をたずねたところ、「読む時間がなかったから」が30.7%と最も多く、以下、「読みたい本がなかったから」(20.2%)、「読む必要がなかったから」(16.3%)、「読むのが嫌いだから」(12.5%)となっている。

【属性別／読書をしなかった理由】



- 読みたい本の入手経路については、「本屋で購入」が59.7%と最も多く、以下、「インターネットで購入」(22.0%)、「「遊学館よも～よ」から借りる」(9.5%)、「伊達市立図書館」(7.9%)となっている。
- この1年間で「遊学館よも～よ」の利用回数については、「1～3回」が6.4%と最も多く、以下、「4～11回」(4.0%)、「12～24回」(1.2%)、「25回以上」(1.2%)となっている。なお、「利用していない」は83.6%となっている。
- 「遊学館よも～よ」でのインターネット予約利用については、「ある」が2.2%、「ない」が91.8%となっている。
- 「遊学館よも～よ」を利用していないと回答した方にその理由をたずねたところ、「本は買って読む」が35.4%と最も多く、以下、「出かけるのが面倒」(19.3%)、「本は読まない」(18.2%)、「利用の仕方がわからない」(14.8%)となっている。

8. 歴史・文化財について

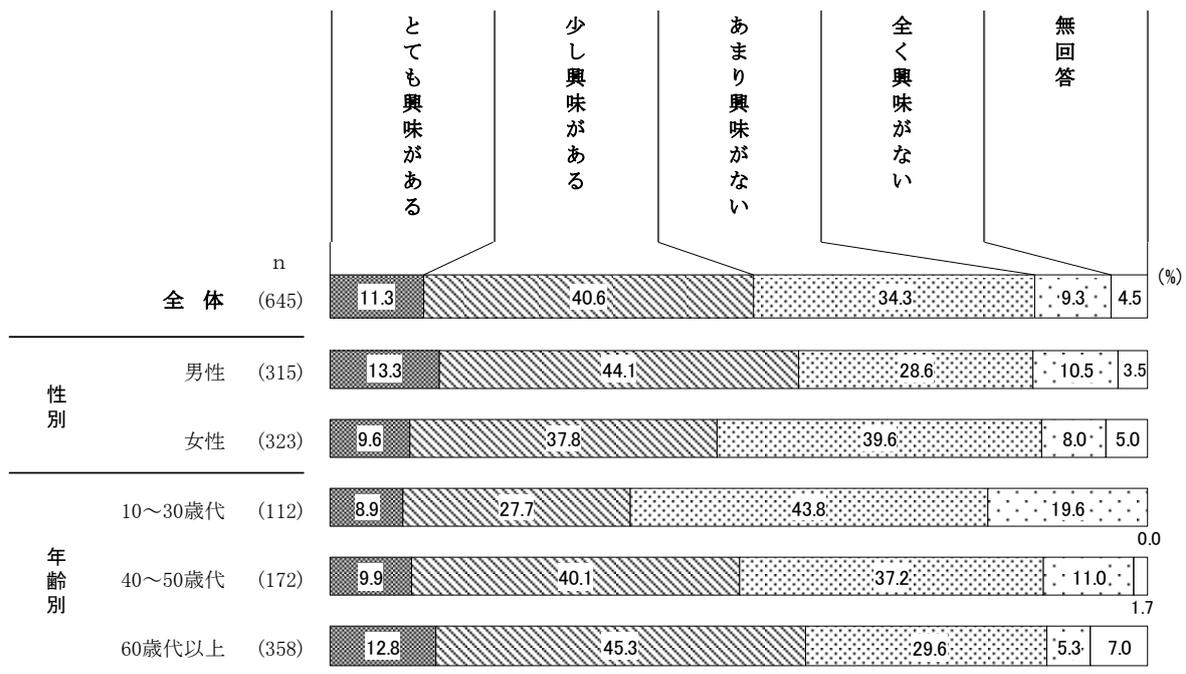
町の歴史・文化財については、全体半数以上が『興味がある』と回答していますが、年代が下がるにつれて、その割合が少なくなっています。

町の文化財の中では、旧伊達郡役所、桑折西山城跡は特に町民の印象に残っており、西山城まつり等の文化財を生かしたイベントや、歴史資料等の展示、歴史散歩などが今後の活用として望まれています。また、音楽の発表会やコンサートも希望されており、芸術・文化活動の催し物として有効的な活用になると考えられます。

歴史・文化財を維持・継承していきながら、その価値や魅力を次世代に伝え、大人から子どもまで世代を超えた魅力ある活用が求められています。

- 桑折町の歴史・文化財への興味については、「少し興味がある」が40.6%と最も多く、以下、「あまり興味がない」(34.3%)、「とても興味がある」(11.3%)、「全く興味がない」(9.3%)となっており、『興味がある』と回答している人は50%を超える。

【属性別／桑折町の歴史・文化財への興味】



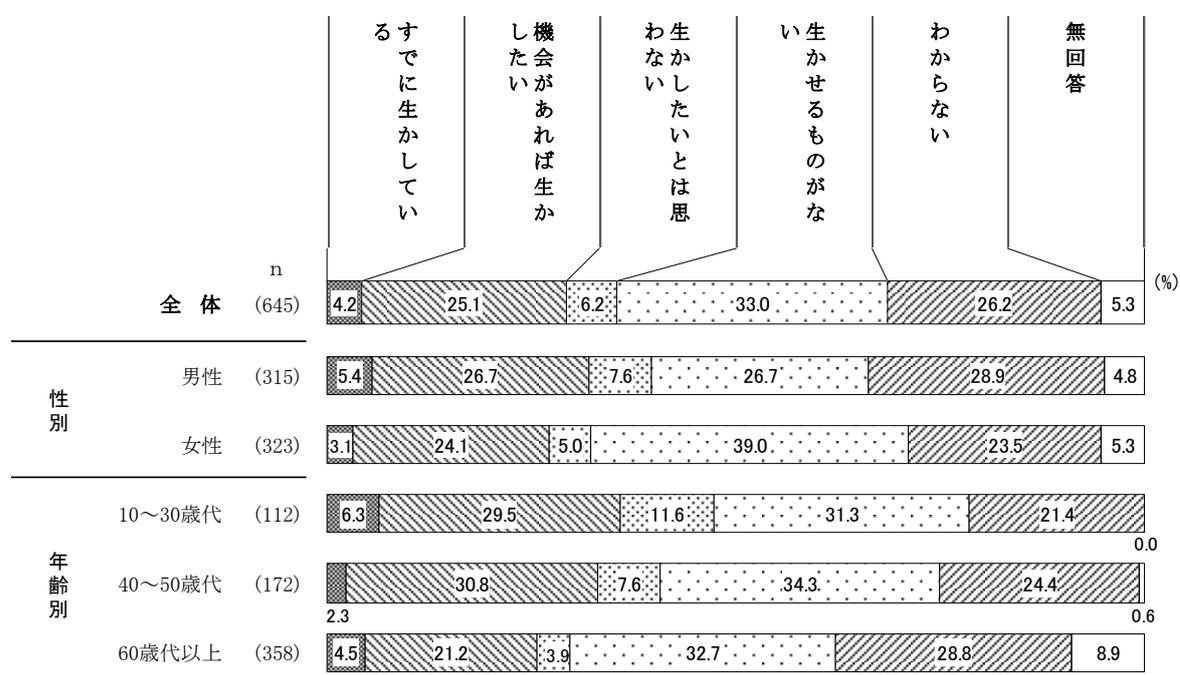
- 桑折西山城や旧伊達郡役所に望む活用については、「文化財を活かしたイベント（西山城まつり等）」が40.8%と最も多く、以下、「歴史資料・絵画・写真・書道などの展示」(30.9%)、「歴史散歩（西山城、町内文化財）」(30.5%)、「合唱や楽器の発表会やコンサート」(24.0%)となっている。
- 歴史・文化財に接する機会については、「観光旅行」が41.7%と最も多く、以下、「テレビやラジオ番組」(41.4%)、「新聞・雑誌」(28.4%)、「美術館・博物館等の文化施設」(23.3%)となっている。

9. 学習成果の活用について

学習成果の活用については、「すでに生かしている」が1割未満である一方、「機会があれば生かしたい」との回答が3割近くに上っています。地域の活性化やまちづくりに自分の経験や知識等を生かせるよう、身近な場面で気負わずに参加できる機会の創出が必要です。

- 地域の活性化やまちづくりのために自分の経験・知識等を活用することについては、「生かせるものがない」が33.0%と最も多く、以下、「わからない」(26.2%)、「機会があれば生かしたい」(25.1%)、「生かしたいとは思わない」(6.2%)となっている。

【属性別／自分の経験・知識等の活用】



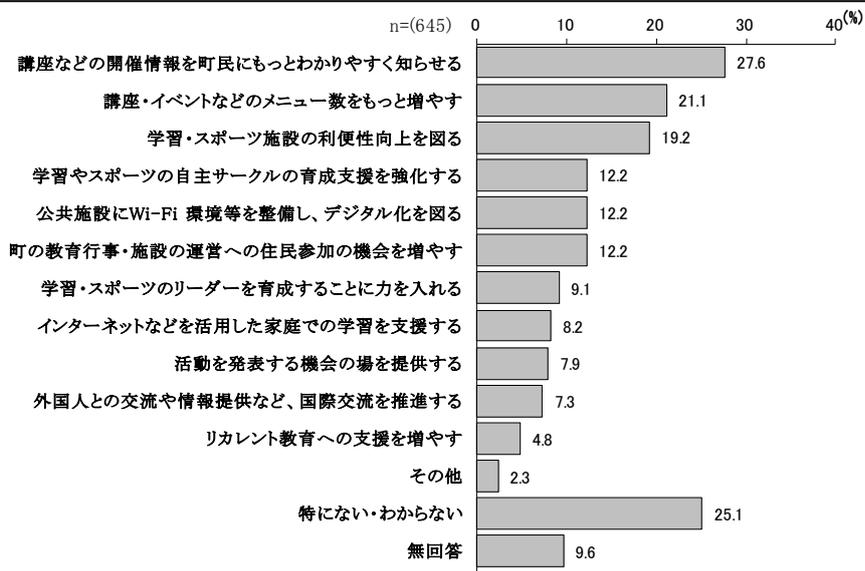
- 地域の活性化やまちづくりのために自分の経験・知識等をすでに生かしていると、または、機会があれば生かしたいと思っていると回答した方にどのような形で生かしているのかをたずねたところ、「地域での奉仕活動の支援」が36.5%と最も多く、以下、「趣味のための学習活動に関する指導、助言などの活動」(24.3%)、「仕事に関係のある学習に関する支援や指導」(19.0%)、「子育て・育児を支援する活動」(18.0%)となっている。

10. 生涯学習・スポーツの推進について

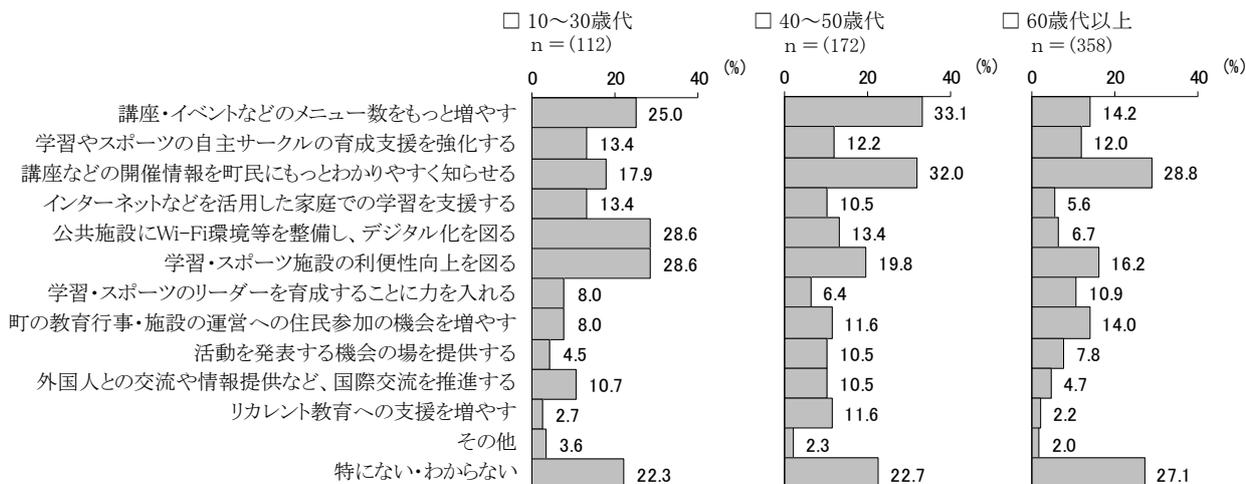
生涯学習・スポーツの推進のため、わかりやすい情報提供、講座やイベントのメニュー増加、施設の利便性向上が求められています。

生涯学習・スポーツの取り組みに対する提案については、講座やイベント内容に関するものが多く、次いで使いやすい施設に向けた提案、周辺環境の整備などが多く挙げられています。

- 生涯学習・スポーツの推進のために町が力を入れるべきことについては、「講座などの開催情報を町民にもっとわかりやすく知らせる」が27.6%と最も多く、以下、「講座・イベントなどのメニュー数をもっと増やす」(21.1%)、「学習・スポーツ施設の利便性向上を図る」(19.2%)、「学習やスポーツの自主サークルの育成支援を強化する」、「公共施設にWi-Fi環境等を整備し、デジタル化を図る」、「町の教育行事・施設の運営への住民参加の機会を増やす」(ともに12.2%)となっている。なお、「特にない・わからない」は25.1%となっている。



【属性別／生涯学習・スポーツの推進のために町が力を入れるべきこと】



- 桑折町の生涯学習・スポーツの取り組みに対する提案についてたずねたところ、主な内容としては、「講座・イベント」に関するもの(38件)が最も多く、以下、「環境の整備」(24件)、「情報発信」(7件)、「条件や制限の緩和」(5件)などとなっている。

桑折町の生涯学習・スポーツの取り組みに対する提案（抜粋）

<講座・イベント>

- ・20～30代世代に合った講座やイベント等の企画をしてほしい。内容を見ると高齢者向けか子ども向けかのどちらかに感じるため。(女性・30代)
- ・若い人だけでなく高齢者の人たちも気軽に出かけられる見に行かれる催し物がたくさんあればいいと思います。(男性・80歳以上)
- ・30代～60代の就労している年代が参加しやすい内容、時間を検討してほしい。(女性・50代)
- ・休日に参加できる機会を増やしてほしい。個人で参加できるといい(ひとりでも)。(女性・50代)
- ・発表の場や試合等を増やしたらいいのではないかな。単発でなく継続できるものを増やしてほしい。(女性・60代)
- ・初心者でも気軽に参加できるような、講座やスポーツがあれば良いと思います。(女性・60代)
- ・学校の部活が地域や民間に移行する予定とのことだが、受け皿になるようなサークルや団体を町と地域・民間が協力して作る。パソコンやプログラミングの分野、芸術・文化(楽器、合唱、書道、写真、俳句、手芸など)の分野、スポーツの分野と、それぞれの分野で詳しい知識や教養がある、町民がいると思うので、そういう町民をシルバー人材派遣のように登録し、外部講師ではなく、その方々を講師として、子どもから高齢者まで幅広く募って講習会を開くようにすると、世代間の交流も生まれると思う。(女性・50代)

<環境の整備>

- ・自主学习がしやすい施設づくり。他の市町村より優れている環境にし、町民に知らせ、アピールする。(男性・40代)
- ・図書館を充実させてほしい。(女性・50代)
- ・イコーゼのプールまでの送迎バスがあると足のない人は行きやすいと思う。(女性・40代)
- ・高校生や大人などが利用できるような学習スペースを作ってほしいと思いました。(女性・10代)
- ・町民として、1人の社会人として私生活や職業にメリットが少しでも感じられるような環境にすることが課題。隙間時間に少しでも足を運びやすく生活基準に沿った環境の整備が急務かと思います。(男性・30代)
- ・インターネットで募集や申し込みを行えるようにしてほしい。(男性・30代)

<情報発信>

- ・町の広報紙以外でも、回覧等の方法で各種催事の案内がありますが、後日になって、再度確認したい場合があります。そこで、町内会に回覧される文書は原則すべて町のホームページに登載されるようお願いしたい。(男性・70代)
- ・男性が参加しやすい、周知等が必要と思う(声がけを行う)。(男性・70代)

<条件や制限の緩和>

- ・公民館への持ち込み、パソコン・タブレット環境の整備。(男性・70代)
- ・教室やサークルに入らなくても個人で使いやすくしてほしい。例えば卓球台など友人と2人ぐらいで行っても使えるように。もっと気楽に使いたい。(男性・60代)

桑折町生涯学習推進基本計画【第3次】

令和5年12月

◇発行：桑折町

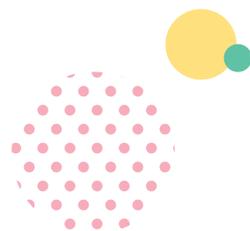
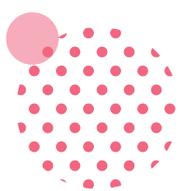
◇編集：桑折町教育委員会教育文化課

〒969-1692 福島県伊達郡桑折町大字谷地字道下 22 番地 7

電話 024-582-2403

(白紙ページ)

(裏表紙ウラ)



献上桃の郷®



こおりまち

桑折町

